

ギリシヤ国
観光振興計画調査
事前調査報告書

昭和63年5月

国際協力事業団
社会開発協力部

附
CR(8)
88-066

国際協力事業団

18056

JICA LIBRARY



1067290E5J

18056

序 文

日本国政府は、ギリシャ政府の要請に基づき、同国の観光振興計画につき調査を実施することを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施することとなった。

国際協力事業団は、本格調査に先立ち、本件調査を円滑かつ効果的に進めるため、運輸省国際運輸観光局国際協力課長 新井倭一氏を団長とするコンタクト・ミッションを昭和62年11月10日から11月20日まで10日間にわたり、また同じくS/Wミッションを昭和63年3月27日から4月3日までの8日間にわたって現地に派遣し、本件要請の背景、調査内容の確認、問題点の整理等を行うとともに、ギリシャ政府の意向を聴取し、現地踏査を行ったうえ、本格調査のS/Wを署名・交換した。

本報告書は、これら調査団の報告として、現地の状況、ギリシャ側関係者の考え方、本格調査実施上の留意事項等を収録したものである。

終わりに、これら事前調査に際し、多大なご協力をいただいたギリシャ政府関係者並びに日本側関係者に、心より感謝の意を表するとともに、今後の調査が順調に実施されることを期待するものである。

昭和63年5月

国際協力事業団

理事 玉 光 弘 明

目 次

序 文

第1章 調査の概要

1 調査の背景	1
2 コンタクト・ミッションの概要	1
2-1 コンタクト・ミッションの目的	1
2-2 調査団の構成	1
2-3 調査の行程及び主な面会者	2
2-4 協議の成果等	3
2-5 今後の予定	5
3 事前調査(S/W)調査の概要	5
3-1 調査の目的	5
3-2 調査団の構成	5
3-3 調査行程及び主な面会者	6
3-4 協議の成果等	8

第2章 ギリシャ国の概況

1 一般概況	10
2 政治・経済情勢	10
3 別添参考資料	13

第3章 ギリシャ国の観光行政（現状と問題点）

1 行政機構	17
2 観光政策	18
3 観光振興計画	20

第4章 観光地及び観光施設

1 ギリシャ全体の現状	22
2 各観光地の現状と問題点	29
3 観光客の動向	30
4 旅行業界	39

5	通訳案内業者	39
6	ヨーロッパ在留邦人のギリシャ観光の可能性	39
7	その他	40
第5章	ギリシャ観光にかかわる日本側需要動向	
1	日本人旅行者数の推移	50
2	エアラインの現状と見通し	62
3	旅行業界の現状	66
4	ギリシャからみた日本の旅行市場	76
第6章	事前(S/W)調査への提言	
1	コンタクト・ミッションの全般的評価	78
2	今後の基本方針	78
3	事前(S/W)調査の留意事項	78
第7章	本格調査への提言	
1	本格調査の目的	79
2	ギリシャ観光協力の今後の方向	79
3	本格調査実施にあたっての留意事項	86
付属資料		
1	コンタクト・ミッション対処方針	90
2	コンタクト・ミッションミニッツ	92
3	ギリシャ政府観光局作成	109
	(1) 「日本における旅行市場」(概論)	109
	(2) 「日本における旅行市場」(本論)	112
4	S/Wミッション対処方針	124
5	スコープ・オブ・ワーク(S/W)	125
6	S/Wミッション・ミニッツ	132
7	要請書	134
8	GREEK TRAVEL MARKET	135
9	日本人旅行者等ヒアリング結果	154
10	ギリシャへの航空便一覧	162
11	収集資料リスト	169

第1章 調査の概要

1. 調査の背景

ギリシャ経済は第二次石油ショック以降、低成長、インフレ、失業、国際収支及び財政赤字に悩まされており、GDP（1985年1人当たり3,303ドル）は西欧諸国中、最も低いグループに属する「準途上国」である。

同国の対外債務は171億ドル（対GDP比43%、1986年末）に達しており、他方貴重な外貨収入のうち、運輸は世界的海運不況で減少、移民送金も伸び悩んでおり、最も大きい割合を占める観光収入に大きな期待がかけられているのが現状。

ギリシャは1：8といわれる対日貿易インバランス等を背景として海外からの観光客、なかでも、とりわけ日本人観光客の増大を望んでおり、87年9月のパプリアス・ギリシャ外相訪日を契機に、同国観光開発・振興に係る技術協力の要請があった。

これら背景と先方の要請に基づき、観光立国としての同国観光開発、施設状況を踏まえ、日本人観光客の増大に貢献し、実現可能性のある観光振興計画を策定することを目的とする調査を行うこととなった。

2. コンタクト・ミッションの概要

2-1 コンタクト・ミッションの目的

コンタクト・ミッションは、次の目的により派遣された。

- (1) 先方政府の要請内容及び意向の確認
- (2) 開発調査システムの説明
- (3) 調査方針及び内容の協議
(観光事業現況の把握、既存調査及び資料の収集、現地踏査を含む)
- (4) 先方受入れ体制の確認
(先方政府の実施すべき事項、先方C/P実施機関、STEERING COMMITTEEの設置等を含む)

2-2 調査団の構成

コンタクト・ミッションの構成は次のとおりである。

総括	新井 俊一	運輸省国際運輸・観光局 国際協力課長
協力政策	石井 哲也	外務省経済協力局 開発協力課
観光政策	蝦名 邦晴	運輸省国際運輸・観光局 観光部企画課
地域政策	岩井 充行	外務省欧亜局 西欧第二課

観光振興計画 丸山 一夫 運輸省国際運輸・観光局 政策課
 需要予測 尾原 亘 運輸省国際運輸・観光局 国際協力課
 計画調整 中野 武 国際協力事業団社会開発協力部
 開発調査第一課長代理

2-3 調査の行程及び主な面会者

(1) 調査の行程

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	11/10	火	東京 <u>JL401</u> → ロンドン	移 動
2	11	水	<u>BA88Q</u> → アテネ	" (夕) 日本国大使表敬, 打合せ
3	12	木		外務省, 国家経済省表敬 全体会議
4	13	金		Discussion Paper に係る会議
5	14	土		現地踏査(ポロス, イドラ, エギナ島)
6	15	日		現地踏査(アテネ市内) 団内打合せ・資料整理
7	16	月		Discussion Paper に係る会議, 議事録作成
8	17	火		資料整理 議事録署名, 日本大使館への報告
9	18	水	アテネ <u>KL516</u> → アムステルダム	移 動
10	19	木	<u>KL861</u>	"
11	20	金	← 東京	"

(2) 主な面会者

1) 国家経済省(M. of National Economy)

- ① Mr. Nikos Skoulas : Undersecretary for Tourism
- ② Mr. G. Kandalepas : Executive Secretary
- ③ Mr. G. Stamatiou : Advisor, Bilateral Economic Relations

2) 外務省(M. of Foreign Affairs)

- ① Mr. A. Exintaris : Bilateral Economic Relations
- ② Mrs. M. Diamandopoulou : "

3) ギリシャ政府観光局(Greek National Tourism Organization)

- ① Mr. C. Kyriazis : President
- ② Mrs. R. Kalokardou : Director, Research and Tourism Development

4) 日本大使館

- ① 田中常雄 大使
- ② 富川明憲 公使
- ③ 宮崎正浩 一等書記官

2-4 協議の成果等

- (1) 希政府の要請内容の確認を行うとともに、日本側開発調査システムの説明を行った。
- (2) 当方の用意した Discussion Paper に基づき調査方針及びその内容の協議を行うとともに、希側受入れ体制についても協議を行った。
- (3) 資料収集及び現地踏査（1日クルーズ及びアテネ市内）を行った。
- (4) 以上を踏まえ、希側との協議につき、会議議事録（M/M）を作成し、11月17日、希側政府観光局総裁と日本側コンタクト・ミッション団長との間で署名・交換した。
- (5) M/Mの内容主要点は以下のとおり。（巻末附録資料参照）

I. (Discussion Paper の) 修正事項

a. 調査対象地域について

希国内の調査対象地域は複数以上として欲しいとの希側要望に基づき、複数以上（area → areas, destination → destinations）と修正した。

b. 調査目標年次について

希政府の次期5カ年計画が1988年から1992年であることから、この5カ年計画の終了年を目標年次として欲しいとの希側要望に基づき、将来需要予測及び提言につき、1992年を目標年次として調査を行うこととし、修正した。

c. 調査報告書について

報告書については、着手報告書（Ic/R）、中間報告書（It/R）、最終報告書案（DF/R）及び最終報告書（F/R）を提出することとし、進捗報告書（P/R）は削除するべく修正した。

d. C/P 機関について

ギリシャ政府観光局が希側の調査機関となる旨確認し、修正した。

e. 希側監理委員会について

希側の調査に関する委員会としては、（Steering/Consultative Committeeではなく）Advisory Committeeを設置する旨確認し、修正した。

II. 希側コメント

a. 希政府の Undertakings について

希側は、希政府の実施すべき Undertakings について各々所掌する関係機関に確認する必要がある旨述べるとともに、事前調査団来希（昭和62年3月予定）までに、その許可を得ておく旨述べた件につきM/Mに記述し、確認した。

b. 調査団の安全の確保について

希側は、当方D/Pの“To secure the safety of the Study Team”の表現は、希国内が危険であるとの印象を与えるおそれがあり、また、治安に関する表現には政治

的配慮も必要との観点から、不適切であるとし、“To inform the members of the study team of any existing risks in the study area and to take any measures deemed necessary to secure the safety of the study team”と修正すべく述べた。また、この条項が希政府 Undertakings の1番目の条項として出てくることは不適当との観点から、第5番目の条項とすべく述べた。この点につきM/Mに記述し、先方意向を確認した。

c. 希国内での「私有地及び制限区域への立入り許可」及び「調査関連資料の日本への持出し許可」について、これら2点の希政府 Undertakings については、通常の保安規定の範囲内において対応するとの観点から“taking into account the usual security measures and public order restrictions”の文言を追加すべき、と希側は述べた旨M/Mに記述し、先方意向を確認した。

d. 上記 b.(安全確保)及び c.(許可)について

日本側は上記の2点の希側意向につき、日本に持ち帰り検討すること、及び、その結論については事前調査団訪希までに希側に連絡する旨述べ、この点につきM/Mに記述し、確認した。

II. 双互の了解事項

a. 調査方針、内容、Undertakings 等について

希側はD/Pに述べられている Tentative Scope of Work, Undertakings, Study Organization について、上記 I.修正事項及び II.希側コメントを除き、受け入れる旨確認し、M/Mに記述した。

b. 希側が提供する調査関連資料について

希側は、本格調査について提供すべき資料については、現存のものの中から提供する(希側としては、資料を提供するための新たな調査等を行わない)旨述べ、日本側としては、それを了解し、この点につきM/Mに記述した。

(6) 11月12日に行われた全体会議において国家経済省 Skoulas 次官から、①観光分野における希国への投資促進、②希国への日本人観光客を誘致するため、日本国内における振興・促進活動及び、③希国への日本からの航空便の増加につき日本側協力を要望する旨の発言があった。これら要望は、希政府が、日本側協力について大きな期待を抱いていること並びに開発調査スキームについて十分な理解をもっていなかったこと等からなされたものと考えられる。

加えて、これら要望の発言について希側は、M/Mに何らかの形で記述する旨強く主張した。この希側主張に対し、日本側としては、再度、開調スキームにつき、その目的及び限界等を説明するとともに、これら要望については、適切な会議の場で、適切な日本側関係者に

対し、適切な方法により（誤解の生じることのないように）なされるべきである旨述べた。最終的には、希側は、これらにつき理解し、M/Mには記述しないことにつき了解した。

(7) 調査の開始時期について、希側から早急に開始して欲しい旨要望があったが、日本側(案)の昭和63年3月事前調査(S/W協議)、昭和63年7月本格調査開始の予定を口頭了解した。

(8) 本格調査の目的及び内容について、希側は、単に日本人観光客の人数増のみならず、彼らの滞在日数増を図ること、及び滞在中に観光客がより多く支出する方策についても調査し、総合的に観光振興を図る提言を得たい旨の発言があった。また、本件調査については、日本国内において行われる日本人観光客の動向調査につき大きな関心を抱いている旨発言があった。

2-5 今後の予定

(1) 昭和63年3月事前調査(S/W協議)の予定で準備を進める。この準備作業の一つとして、事前調査団派遣前に適切なコンサルタントを選定し、役務提供契約により既存資料のレビュー等、希国観光分野に関する予備的分析を行っておくことについても検討する。

(2) 事前調査の実施にあたっては、当方のS/W(案)を事前に先方に送付し、検討を依頼し、先方コメント等について我が方対応方針を準備する必要があると考えられる。

(今回先方と協議したTentative Scope of workには“Introduction”にあたる部分が含まれておらず、その標準版は、「日本国内の法律及び規則に従って」のみとすることになっている点について、議論になるおそれもある)

3. 事前調査(S/W)調査の概要

3-1 調査の目的

昭和62年11月のコンタクト・ミッションによるギリシャ側の要請内容及び意向の確認、調査方針の協議、現地踏査等を踏まえ、今回調査ではギリシャ側に対し事前送付した本格調査のSCOPE OF WORKを協議・締結することを目的とする。

また、併せて補足現地踏査、資料収集、ヒアリング等を行い、ギリシャ観光事業の現況把握に努める。

3-2 調査団の構成

総括	新井 俊一	運輸省国際運輸・観光局 国際協力課長
協力企画	篠浦 烈	国際協力事業団社会開発協力部 開発調査第一課長
協力政策	青木 真	外務省経済協力局 開発協力課
地域政策	岩井 充行	外務省欧亜局 西欧第二課
観光振興計画	尾原 亘	運輸省国際運輸・観光局 国際協力課
需要調査	星野 莞治	八千代エンジニアリング(株) 開発計画部主任

3-3 調査行程及び主な面会者

(1) 調査行程

- 1 3月27日(日) LV. TOKYO 10:00 AY-915 NON STOP
AR. HELSHINKI 15:50
LV. HELSHINKI 17:45 AY-773(VIA ISTANBUL)
AR. ATHENS 23:30
- 2 3月28日(月) 午前:ギリシャ観光局(キリアジス総裁)表敬
国家経済省(ゲベリス局長)表敬
外務省表敬
昼:金子大使主催昼食会(大使公邸)
午後:希側との会議(S/W協議)
- 3 3月29日(火) 午前:希側との会議(S/W, M/M協議)
午後:現地踏査(スニオ)
- 4 3月30日(水) 現地踏査(コリントス, アルゴス)
- 5 3月31日(木) 午前:S/W, M/M署名
夜:調査団長主催レセプション
- 6 4月1日(金) LV. ATHENS 08:50 BA561
AR. LONDON 10:55
- 7 4月2日(土) LV. LONDON 13:10 BA007
- 8 4月3日(日) AR. TOKYO 08:55

星野団員調査日程

- 6 4月1日(金) 午前:国家経済省(観光経済資料収集)
午後:資料, ガイドブック収集
- 7 4月2日(土) マラトン視察
- 8 4月3日(日) ONE DAY CRUISE
- 9 4月4日(月) 午前:環境・計画・公共事業省(地域計画M/P収集)
午後:運輸省(観光交通開発計画ヒアリング)
観光局(GNTO) (収集資料の打合せ)
- 10 4月5日(火) 午前:国家経済省(FOREIGN INVESTMENT LAWの収集, ヒアリング)
午後:労働省(観光産業従業員データ収集, VOCATIONAL TRAINING PROGRAM等)
GREEK HOTELIER ASSOCIATION(ホテル等級付け)

評価基準等打合せ)

- 11 4月 6日(水) 午前: CREECE'S WEEKLY社(経済, 統計データ収集)
NATIONAL STATISTIC SERVICE OF GREECE
(統計資料及び出版リスト収集)
午後: HELLENIC TOURS(日本人旅行者についてのヒアリング)
ARVANTIS(日本人旅行者についてのヒアリング)
- 12 4月 7日(木) 午前: GNTO統計部(81-85観光統計, 86・87ドラフト収集)
国家経済省(観光収入データ収集)
午後: GNTO帰国報告
日本大使館帰国報告
- 13 4月 8日(金) LV. ATHENS 08:50 BA561
AR. LONDON 10:55
- 14 4月 9日(土) LV. LONDON 13:10 BA007
- 15 4月10日(日) AR. TOKYO 08:55

(2) 主な面会者

- Mr. Giannis FRAGKAKIS Chief of Statistical Service GNTO
- Dr. Hélène KALOGROPOULOU-GILLERON, Economic Science Centre of Planning
and Economic Research
Member of International Academy of Tourism
- Mr. Stamatias MILINGOS Economist M. A.
Ministry of National Economy
- Mr. A. BAKAS Private Investment Promotion Office
Ministry of National Economy
- Mrs. VAINA Director of Regional Planning
Ministry of Environment,
Planning and Public Works
- Mr. John VOURNAS Director of Environment Protection
Ministry of Environment,
Planning and Public Works
- Mr. Panayiotidis NICOLAS Chemical and Sanitary Engineer
Ministry of Environment,
Planning and Public Works

Mrs. Spala DEMETRA	Chemist and Pharmaciaian Ministry of Environment, Planning and Public Works
Mr. Stratos PAPODIMITRIOU	Advisor to Minister Ministry of Transport
Mr. Ionnis HATDIPANAGIOTOU	Director of Research and Analysis Division, Ministry of Labour
Mr. Nick FOTINOS	Director of Vocational Training Division, Ministry of Labour
Mr. Nikos Ant. ZAXARIADIS	National Statistical Service of Greece
Mr. Gerassimos L. PHOKAS	President Greek Hotelier Association
Mr. Basil A. CORONAKIS	President Greece's Weekly Inc.
Mr. Michael PAHIS	Consultant Greece's Weekly Inc.
Mrs. Titika COUMOULOU	Public Relations Scandinavian Airlines System
Mr. Yasuo MATSUMIYA	Japanese Division Hellenic Tours
Mr. Yannis LAGIOS	Director ARVANITIS Travel and Tourism Inc.
Mrs. Keiko PAPAYANNOPOULOU	Incoming Tourism Supervisor Gulliver Travel Agency

3-4 協議の成果等

GNTOKキリアジス総裁への表敬訪問の際、「GNTOKとして、日本人観光客の増加を図ることに対し、大きな期待を寄せており、そのためにGNTOKカウンターパートは全面的に協力する」とのことであった。また国家経済省(MONE)ゲベリス局長への表敬の際にも、「日本人観光客がギリシャ経済に貢献することにより、貿易収支のアンバランスの是正に少しでも役立つことを期待している」との話があった。

3月28日及び29日に行われた希側とのS/W及びM/Mに関する協議は、前回コンタクト・ミッションの際に行われた話し合いにより、すでに合意の基礎ができていたことや、在ギリシャ

日本大使館による事前の調整等により、会議においては修正要求もなく、合意に達することができた。

その結果S/W及びM/Mは29日にGNTOキリアジス総裁、及び事前調査団新井団長により署名が行われた。

協議の内容は以下のとおりである

- 1) ギリシャ側及び日本側は今回提案された調査内容に関するS/Wについて修正を加えることなく合意に達した。
- 2) 希側及び日本側は、調査内容以外の条項、すなわち Undertaking of the Government of Greece, Undertaking of JICA 及び Tentative Study Schedule 等についても修正を加えることなく合意に達した。
- 3) 調査期間に関し、年波動を把握するためにも12カ月程度の調査期間を要するとの認識があり、短縮等の変更はなかった。
- 4) 希側の実施体制としてギリシャ政府観光局(GNTO)が一元的なカウンターパート機関として機能し、その責任を有する。そのためS/Wの署名は、キリアジス総裁単独の署名とし、Advisory Committee の設置は必要としない。
- 5) 資料収集については、前回コンタクト・ミッション訪問時に収集できなかった資料及び今後本格調査の準備のために必要と考えられる資料の種類の確認をし、希側に対して提供を依頼、希側は協力を約し、未入手分については、後日、日本側へ送付されることとなった。
- 6) 希側の便宜供与に関しては、GNTOが、その事務所内に調査団のためのスペース及び適切な備品の設置を提供することを確認した。
- 7) IDカードについてはGNTOがすべての訪問のアレンジメント、同行についての責任を持つことから、必要はないとのことであった。

第2章 ギリシャ国の概況

1. 一般概況

(1) 一般事情

人口：約990万人（1986年推定）
面積：約13万平方キロメートル（日本の約3分の1）
首府：アテネ（人口約300万人）
言語：ギリシャ語
宗教：ギリシャ正教
政体：共和制（元首：プリストス・サルゼタキス大統領）

(2) 地政学的位置：ギリシャは、南欧の要路に位置し、エーゲ海のほとんどの島嶼を領有。バルカン半島では唯一の西側陣営の国として、戦略上重要。本土及びクレタ島には米軍基地あり。対トルコ関係が最大の外交案件。

(3) 歴史

歴史的背景：ペルシャとの戦いに勝利し、紀元前4～5世紀には古代都市国家（ポリス）として繁栄を誇ったギリシャも、その後、アレキサンダー大王の活躍したヘレニズム時代を過ぎてからは、ローマ帝国、オスマン・トルコ帝国と、次々に異民族の支配下におかれる歴史をたどった。1830年になって、やっとトルコから独立を勝ち取ったものの、現在の領土となったのは今世紀前半になってから。また、第2次大戦後、1946年から49年にかけて内戦が勃発。1967年からは軍事独裁政権が支配したが、1974年、サイプラス紛争をきっかけに崩壊、同年民政に移行。

2. 政治・経済情勢

1974年、軍事政権崩壊・民政移行後、保守新民主主義党（ND）が7年間政権を握ってきたが、1981年10月の総選挙により、一般大衆、農民、労働者等の広範な支持を得たパンドレウ（現首相）の率いる全社会主義運動（PASOK）が勝利。「変革」及び自主独立外交路線を旗印とした希初の社会主義政権が誕生。

PASOK政権は、経済運営面において労働者への分配増加、社会福祉の拡充等の社会主義的な公約の実施と経済安定化、投資、企業活動の振興という実際的な経済政策をとる必要性との間で揺れ動き、経済は継続して停滞傾向で、失業、インフレ及び財政赤字、対外債務等が増加。また、1985年6月の総選挙においては、NDがPASOKの経済政策面での弱点をつき、

PASOKを追い上げたが、結局、政権復帰には至らず、PASOKが再び勝利。

今後4年間(1989年6月まで)の政権を約束されたPASOKは、85年10月、国民に緊縮を強いる緊急経済措置(ドラクマの15%切下げ、賃金上昇の抑制、財政赤字の削減、輸入制限措置の実施等)を発表。

同経済措置は、労働者、一般大衆の不満・反発を引き起こしたが、PASOK政府は、インフレ、国際収支赤字の改善等を目指し、同措置を継続堅持。

同措置の結果、最近では市民の消費意欲は低下し、また石油価格低下等もあり、インフレも鎮静化の兆し。また、国際収支及び財政赤字も徐々に縮小傾向にあり、PASOK政府は88年から同措置を緩和する方向を打出している。

ただし、まだ相当の国際収支赤字、対外債務等をかかえる希にとって、経済の再建・安定化は内政上最大の課題。

なお、対外的には、希はEC及びNATOのメンバーであり、多角的外交、独自の外交を目指し、親アラブ、対ソ連・東欧柔軟姿勢をとっており、また、サイプラス問題、エーゲ海問題等をめぐりトルコと対立的関係にある。また、現在、米と米軍基地問題をめぐり交渉中。

(参考1) 政治

- パパンドレウ内閣：全ギリシャ社会主義運動(PASOK)政権。
 - 首相：アンドレアス・パパンドレウ(PASOK党首)
 - 外相：カロロス・パプリアス
 - 議会：1院制、300議席(任期4年)
 - 議会における党派別議席数
- | | 1987年8月現在 | 1985年総選挙時 | 1981年総選挙時 |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|
| PASOK(全ギリシャ社会主義運動) | 156議席 | (161) | (172) |
| ND(新民主主義党) | 108議席 | (126) | (115) |
| DA(民主改新党) | 11議席 | (-) | (-) |
| KKE(ギリシャ共産党) | 10議席 | (12) | (13) |
| その他(諸派、無所属) | 15議席 | (1) | (-) |

(参考2) 経済・基本的特徴

- 主要産業は、農業、軽工業、製鉄、造船、石油精製等。
 - 農業は、GDPの17%、労働人口の30%を占める。主要産物はタバコ葉、綿花、果実、ワイン等。小規模経営で生産性低く、最近ではネットの食料輸入国。
 - 工業は、GDP、労働人口の各々約20%を占める。軽工業中心ではあるが、製鉄、造船、石油精製等の重化学工業も一部あり。
 - 貿易は、対EC(40%以上)が中心、その他、米国、OPEC諸国等。
- 貿易は、恒常的に赤字で、これを観光、海運、海外送金等の貿易外収支で補填。

- しかし、経常収支も恒常的に赤字で、このため対外債務も増加（1986年末で171億ドル、対GDP比43%）

（参考3）主要経済指標

(1) 国内総生産（GDP）	328億ドル（1985年、IMF統計）
(2) 一人当たりGDP	3,303ドル（同上）
(3) 経済成長率（実質）	1.3%（1986年、希国家経済省）
(4) 消費者物価指数上昇率	16.9%（1986年末、希国家統計局）
(5) 失業率	7.6%（1986年、EC委員会）
(6) 国際収支	
貿易輸出	45億ドル（1986年、希中央銀行）
輸入	101億ドル（同上）
貿易収支（赤字）	56億ドル（同上）
貿易外収支（黒字）	38億ドル（同上）
（うち観光収入）	18億ドル（同上）
運輸収入	10億ドル（同上）
移住者送金	9億ドル（同上）
（注）貿易収支の赤字は上記貿易外収支の黒字、外貨導入によって補填されている。	
経常収支（赤字）	18億ドル（同上）
外貨準備高	23.6億ドル（同上）（86年末値）
(7) 対外債務	171億ドル（1986年末、希中央銀行）
(8) 通貨	1ドル＝135.8ドラクマ（1987年6月末、売買仲値、希中央銀行）
	1ドラクマ＝1.08円（同上）
(9) GDPの構成（1985年（推定値））	

	金額（百万ドラクマ）	構成比（%）
農水産業	700,237	17.4
工業・建設業	1,166,000	29.0
うち工業	902,300	22.4
うち建設業	263,770	6.6
サービス業	2,159,300	53.6
GDP	4,025,537	100.0

(参考4) (緊縮経済措置の目標と実績)

	1985年	86年		87年
	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)
インフレ率(年末値, %)	25.0	16	16.9	10
経常収支赤字(億ドル)	32.8	17	17.6	12.5
公的部門借入(GNP比, %)	17.9	14	14	10

3. 別添参考資料

1. 国内経済

(1) 概 要

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	備 考
実質GDP成長率(%)	0.4	0.4	2.8	3.0	1.3		国家経済省
名 目 GNP (10億ドラクマ)	2632 (248)	3108 (181)	3807 (225)	4580 (203)	5497 (200)		同 上 ()内は前年比(%)
一人当たりGNP	3938	3556	3412	3360	3980		同上(ドル/人)
鉱工業生産指数上 昇率(%)	0.9	-0.3	2.4	3.3	0.4		国家統計局(80年基準 鉱工業・電気・ガス)

(参考) 最近の鉱工業生産指数上昇率(対前年同月比, %)

86/9	10	11	12	87/1	2	3	4
-4.9	-4.0	0.3	-4.5	-3.4	4.5	1.6	-7.6

(2) 物 価

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	備 考
消費者物価指数上 昇率(%)	21.0 (19.1)	20.2 (19.9)	18.5 (18.1)	19.3 (25.0)	23.0 (16.9)		国家統計局()内 は年末値)
卸売物価指数上 昇率(%)	16.0	19.7	21.5	20.6	18.1		

(参考) 最近の指数の動き

	86/12	87/1	2	3	4	5	6	7
消費者物価指数上昇率 (対前年同月比%)	16.9	15.5	16.8	16.8	17.6	17.7	18.1	16.8
卸売物価指数上昇率 (対前年同月比%)	8.5	7.3	7.6	9.3	9.9	11.2		

(3) 雇用情勢

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	備 考
失業率 (%)	-	7.8	8.1	7.8	7.6		EC('87.3)
実質給与伸び (%)	2.5	0.3	3.6	2.8	-6.9		同上(一人当たり平均)

(4) 国家財政

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	備 考
歳出(億ドラクマ)	8,791	11,199	14,122	18,394	23,103	27,400	大蔵省
公的赤字(同)	3,508	4,264	5,525	8,464	7,797		民間調査機関
同上GDP比(%)	15.4	15.7	14.6	18.8	14.6		同 上

(注) 86年の数値は、推定値。87年の数値は、当初予算。

ロ. 国際経済

(1) 経常収支

(中央銀行, 単位: 百万ドル)

	1982	1983	1984	1985	1986	1987 (1-6)	備考(86(1-6))
輸 出	4,141	4,105	4,394	4,293	4,503	2,422	2,069
(前年比, %)	-13.2	-0.9	7.0	-2.4	4.9	17.1	
輸 入	10,068	9,491	9,745	10,561	10,094	5,856	4,961
(前年比, %)	-12.2	-5.7	2.7	8.4	-4.4	18.0	
うち石 油	2,778	2,647	3,080	3,188	1,702	-	-
貿易収支	-5,927	-5,386	-5,351	-6,268	-5,591	-3,434	-2,891
貿易外収支	4,042	3,510	3,221	2,992	3,835	1,969	1,432
うち運輸収入	1,657	1,309	1,095	1,039	988	541	488
観光収入	1,527	1,176	1,313	1,428	1,833	703	537
移民者送金	1,043	935	922	801	906	549	414
経常収支	-1,885	-1,876	-2,130	-3,276	-1,756	-1,465	-1,460

(注) 86年の数値は暫定値

(2) 資本取引

	1982	1983	1984	1985	1986	1987 (1-5)	備 考
資本取引(ネット)	1,779	2,303	2,477	3,147	1,923	1,095	中央銀行
うち民間部門	812	1,092	1,058	911	856	490	
公的部門	1,677	1,910	2,204	3,101	2,152	1,393	
償 還	-710	-699	-786	-863	-1,080	-788	
外貨準備高	1,011	1,042	1,103	1,734	2,360	2,325	同上(年末値)

(注) 86年の数値は暫定値

(9) 対外債務

	1982	1983	1984	1985	1986	備 考
対外債務残高(百万ドル)	9299	10562	12318	15220	17127	中央銀行(年末値)
デットサービスレシオ(%)	145	160	192	218	221	同 上

(注) 86年の数値は暫定値。デットサービスレシオには、サプライヤーズクレジットを含まず

(参考) 元金償還必要額(中央銀行試算, 単位: 百万ドル 86年末)

1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
1,085	1,490	2,030	1,810	1,860	2,125	1,720	1,300	1,005	925

(4) 為替相場

	1982	1983	1984	1985	1986
ドラクマ/ドル(年末)	702	990	1282	1483	1393

*最近のドラクマの対ドルレートの推移(月末値, 売買仲値)

	86/12	1987/1	2	3	4	5	6	7	11/28
ドラクマ/ドル	1393	1328	1343	1327	1317	1344	1358	1389	1281

ハ. 日希経済関係

(参考1) 日希貿易の推移 (単位: 百万ドル) (大蔵省貿易統計による)

我が国の対希	輸 出	輸 入	バランス
1982年	585(68.4)	38(10.2)	547
1983年	908(155.1)	29(7.6)	879
1984年	791(87.1)	76(26.1)	715
1985年	577(73.0)	63(8.3)	514
1986年	563(97.5)	72(11.4)	491
1987年(1-10月)	381(88.2)	62(11.0)	320

(参考2) 日希両国の貿易総額に占めるシェア(1986年OECD統計)

	輸 入	輸 入
我が国の総貿易に占めるギリシャのシェア	0.3%	0.06%
ギリシャの総貿易に占める我が国のシェア	1.0%	6.6%

(参考3) 我が国の主要輸出品 : 船舶, 自動車, 電気製品等

我が国の主要輸入品 : 葉タバコ, 果物, 野菜(調整品), 大理石等

(参考4) 日本企業による対ギリシャ直接投資

(単位:千ドル, 年度末ベース)

年 度	件 数	金 額
1981	0	0
1982	1	3,328
1983	0	0
1984	0	9,060
1985	1	3,456.1
1986	0	0
累 計 (1951年以降)	16	95,672

代表例

イ. ヘレニック・スチールCo.

伊藤忠商事, 日本鋼管などの合弁, 鋼板製造。

ロ. 鉄興社ヘラスS. A.

東洋曹達工業(65%)と三菱商事(35%)の合弁, 電解二酸化マンガン製造。

ハ. 吉田ヘラス, AB. B. E, YKKの100%出資, ジッパー及び関連部品の製造販売。

(注: 1986年12月, トリカラ市に新工場を落成)

第 3 章 ギリシャ国の観光行政

3-1 行政機構

ギリシャの観光行政は、国家経済省 (Ministry of National Economy) が所管しており、さまざまな観光振興政策を実施しているのが、同省の政府観光局 (National Tourism Organization of Greece, NTOG) である。また、1987年10月に観光関係省庁会議 (Inter-Ministerial Council for Tourism) が新設され、各省庁の連絡調整等を行うこととしている。その他、運輸省がオリンピック航空等を所管している。

(1) 政府観光局

政府観光局は、1951年に官民の関係機関と協力して、観光振興計画の企画立案及び、その遂行を図るために設立された。

政府観光局は、国家経済省の監督下に置かれ、1987年9月に同省に観光担当事務次官が新設された。今後は、次官を中心に、政府観光局の業務の充実・強化が図られることとされている。

組織的には、ギリシャ国内及び海外に宣伝事務所を有している。

主要業務

- ・外国人観光客の誘致
- ・観光地の開発
- ・観光に関する交通手段の改善
- ・温泉・遺跡の科学的、美的アレンジ
- ・ホテルの建設
- ・観光関係機関の活動の支援
- ・観光客の意識の向上
- ・国内外での観光に関する広報

等を図るための施策の企画立案及び実施。

(※) ①政府観光局の組織、予算、活動実績については要調査。

②国家経済省内における観光関係事務の処理体制は不明。担当課はない。

(2) 観光関係省庁会議

1987年10月に設置。スクラス国家経済省次官を議長に、関係9省庁の総局長クラスで構成されている。

構成員は、スクラス次官のほか、文化省、公共事業省、農業省、商務省、運輸省、海運省、男女平等協議会及び外務省の各次官及び総局長である。

(※) 10月末に設立されたばかりで、現在まだ機能しておらず、観光行政の遂行上、どのような役割を持っていくのか不明。(要調査)

(3) オリンピック航空

1957年にオナシス・グループの一企業として設立され、75年に国営企業となった。

同航空は、ギリシャ本土内及び本土と各島々を結ぶ国民の足として重要な役割を果たすとともに、ヨーロッパ各国を中心に広く世界の主要都市を結んでいる。

なお、同航空は日本への乗り入れは行っていない。

(※) ①島々への路線は、子会社のOlympic Aviationが担当している。

②運輸省との関係は、定かではないが、補助金が出されているようである。

(※) 観光関係各省庁の組織(担当部局)、予算、活動実績についても不明。(要調査)

3-2 観光政策

ギリシャの観光政策は、「経済社会5カ年計画」(1983-87)の中で基本的な方向づけがなされている。

同計画で、観光に係る部分の目的は以下の3点である。

(I) 提供されるサービスの質の向上によるギリシャ観光の国際競争力の増大

(II) 遊休施設または利用率の低い施設の活用

(III) バランスのとれた供給の実現

上記の目的を実現するため、1986年に講じられた施策は以下のとおりである。

① 宿泊施設・飲食施設の整備

・ホテルのランク分け

・レストランのランク分けの見直し

・キャンプ場の改善

② 環境保全体策

・遺跡の保護のための住居の移設奨励

・環境保全法の制定及び手続規定の整備

・ヨーロッパ環境年の会議に参加

③ 職業訓練

- ・旅行業者養成学校の課程の質の向上及び期間の延長
- ・職業訓練のためのセミナー開催
- ・労働者雇用機構 (The Organization for Employment of the Labour Potential, O.A.E.D.) による職業訓練プログラムの実施

④ 助成制度

- ・ホテル、観光施設等の施設の改良・近代化、温水プールの建設等に対する助成金の交付
- ・ホテル収入や旅行業者の外国宣伝費等に対する減税
- ・新しい形態の観光サービスの提供に係る融資及び補助

⑤ 新しい形態の観光の開発

- ・健康観光産業の育成 — 温泉の開発 (NTOGが1億ドラクマを費やす)
- ・海洋レジャー、国際会議、ウィンタースポーツ等、新しいタイプの観光開発の推進
- ・タイム・シェアリング制度のための新法の制定
- ・サマー&ウインター・ホリデー・プログラムの実施
- ・国内観光の奨励 (ピーク時以外の期間は全観光施設の利用費が20%割引等)
- ・観光インフラ整備に対する融資
 - ・ヘルス・ツーリスト・センター、ウインター・スポーツ・センター及びマリーナ建設
 - ・伝統的施設、ハイウェイ・ステーション、レクリエーション地区、ゴルフコース等の開発
 - ・E.C特別プログラムの実施

(注) タイム・シェアリング制度とは、5年から60年の期間を設定し、年間最低1週間滞在するために、好みの施設をレンタルする制度。(コンドミニアムに類似したもの?)

⑥ その他

マーケット・リサーチを行い、以下の報告書が出された。

「84-85年におけるギリシャの外国人旅行客の観光需要の特徴に関する特別調査
(Special research regarding the characteristics of foreign tourists demand
in Greece during the period 1984/85)」

「観光に対する社会の受け止め方に関する調査 — パロス、サントリーニ、キティラ
(Research on social approval of tourism — Paros, Santorini, Kithira)」

また、経済協力に関しては、イタリア、アルバニア、イスラエルとの間で合意文書に調印し、議会の批准を経て発効する予定となっている。

- (※) ①「5カ年計画」の全体の内容、その中での観光政策の位置づけ、予算規模等は不明。
(要調査)
- ②記述内容はOECDの「Tourism Policy and International Tourism」からの抜粋であるが、これが観光政策の全体を表わすものであるかは不明。
- ③過去にも「5カ年計画」があったか否か、ある場合は、その内容、予算規模、実施した結果等についても不明。(要調査)

3-3 観光振興計画

(1) 国家レベルの計画

「観光投資に関する5カ年計画」が中心。

① 主要目的

- (I) 観光需給の再配分
- (II) 過密地域の分散
- (III) 潜在的観光資源の開発に対する多様なインセンティブの付与
- (IV) 民間セクターの活用
- (V) 旅行シーズンの拡張
- (VI) 新しい観光活動の促進
- (VII) 環境保全

② 実施手段

- (I) 観光関連産業に対する法的規制の見直し
- (II) 多様なインセンティブの付与
- (III) 公共事業によるインフラの整備
- (IV) 過度集中地域の開発の抑制
- (V) 環境保全特別区域の維持
- (VI) 観光開発により企業化可能性のある地域の開発

③ 公共投資計画

ギリシャ観光の阻害要因たる空間、集中及び季節性の問題を解決するために、三つのシステムが実行されている。

- (I) マリーナ
 - (II) スキーセンター
- } の整備

(Ⅱ) 温 泉]

④ 官民共同投資計画

政府観光局により策定されたもので、官民協力のもとでの新たな投資機会及び投資区域の発掘、提供を推進するものである。同計画の主要な内容は以下のとおり。

- (Ⅰ) 長期滞在型の旅行村の整備
- (Ⅱ) 観光施設を備えたマリーナの建設
- (Ⅲ) 温泉と観光施設の複合体の建設
- (Ⅳ) 宿泊施設を併設したスキーセンターの建設

場合によっては、上記の施設をNTOGで所有し、民間投資家に賃借するということも考えられる。

(2) 地方レベルの計画

資 料 ナ シ

- (※) ①第2節で述べた「5カ年計画」と本節で述べた「投資計画」との関係は不明。
- ②全国レベルの計画で、ほかにもある可能性あり。
- ③地方レベルの計画についても不明。
- ④こうした観光振興計画については、計画の策定フロー、過去及び現在の計画の内容、予算規模、実績等、全く不明。(①～④まで要調査)

第 4 章 観光地及び観光施設

1. ギリシャ全体の現状

(1) 自然環境

バルカン半島の南部と 3,000 余りの島よりなり、国土の 80% が岩石の多い丘陵で耕地が非常に少ない。面積は 131,940 km²、気候は地中海性で温暖であるが、乾燥して、昼夜の気温の差が大きい。

(2) 交通

(航空)

国際線 — ギリシャの国際空港は Athina の Hellinikon 空港を主な玄関口として、その他 Thessaloniki, Rodos, Iraklio, Ioania, Kerkyra の 6 空港がある。1988 会計年度のプロジェクトとして Sparta の国際空港建設計画が予定されている。

アテネには現在 47 社のエアラインが乗り入れており、年間の到着客は 1985 年には 326 万人である。この他 Ioania は Albania の Thirana, Thessaloniki は Amsterdam, Frankfurt, London, Zürich 等ヨーロッパの主要都市約 10 都市との間に定期航空路が開設されている。

国内線 — オリンピック航空がほぼ独占的に運航しているが、一部については、オリンピック航空の小会社（オリンピック・アビエーション）が運航している。

航空ルート図を図-1に示す。輸送人員、輸送能力についてギリシャ側に資料要求中。

参考収集資料 G-1-(2)。

(鉄道)

鉄道の利用は少なく、複線区間はアテネ近郊区間のみで、ほとんど単線（営業キロ 892 km、複線化率 5%）である。地下鉄以外は電化はされていない状況であり、一部ツアーの行程に利用している事例はあるものの、主たる観光の輸送手段とはなりえないと思われる。

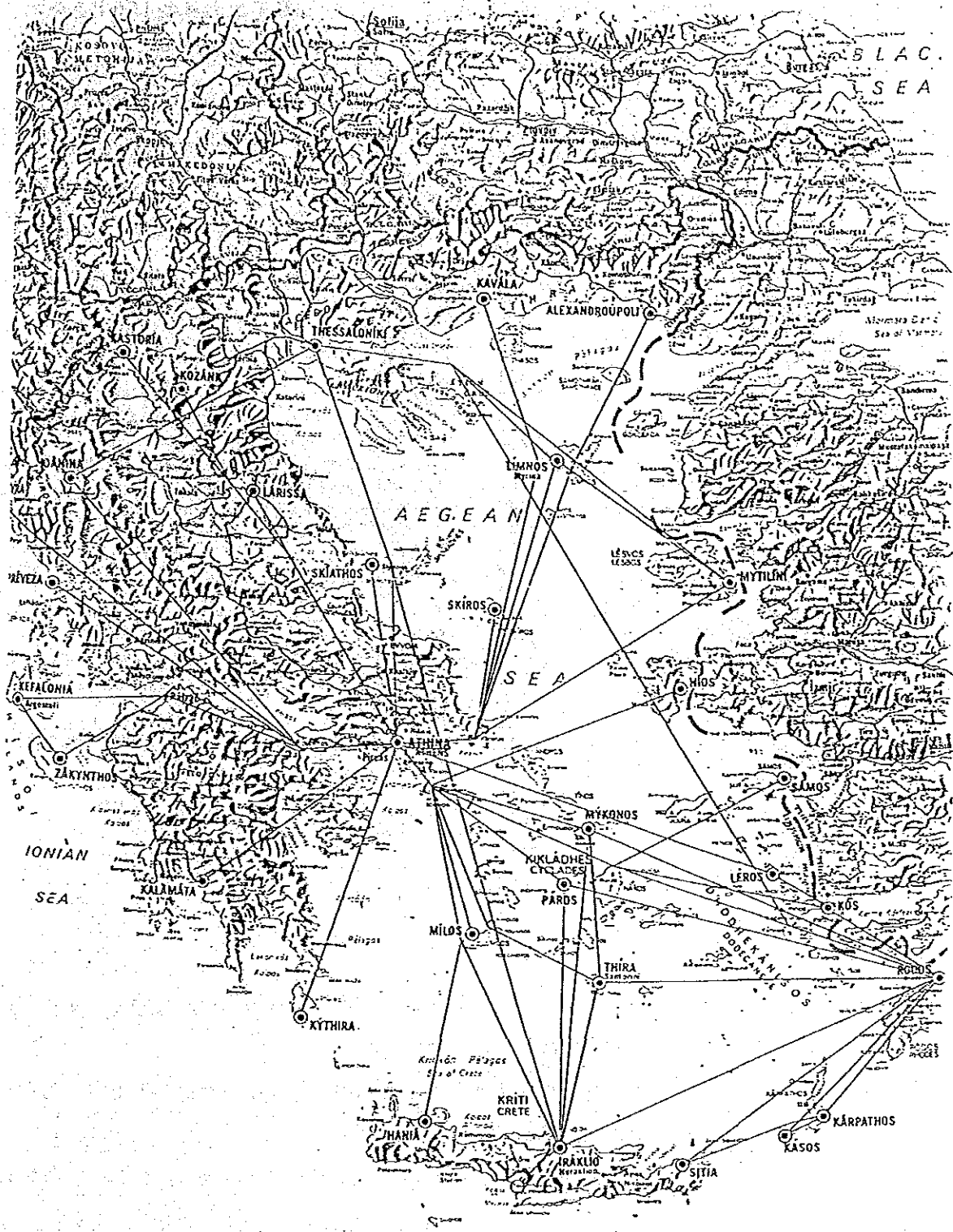
(道路)

アテネ市内においては、ほぼ完全に舗装されている、ギリシャ全体についての道路の状況を表-2に示す。舗装率は国道 99.7%（97.4%）。州道 87.2%（65.4%）とかなり良い状況である。②（ ）内は砂利舗装を含まず。参考収集資料 H-2-(1) Michelin Greece Road Map

(バス)

観光バスはギリシャ全土で約 3,500～4,000 台である。質的面で日本人団体に使用できる台数は 1,500 台。また、大手のバス会社はなく、ほとんどが小規模な会社である。

その他、市内バス、トロリーバスもあるが、台数、空調設備についてギリシャ側に資料要求中。なお、市内バス、トロリーバス料金は、1回 30 ドラクマ、午前 1 時～5 時は 50 ドラクマ、午前 5 時～8 時は無料。



☒ - 1

MEDITERRANEAN SEA

(タクシー、レンタカー、航路)

タクシー料金は初乗り 25 ドラクマ、約 60m 毎に 2 ドラクマ加算で最低料金 170 ドラクマ。
 なお、航路 (クルージング) については、本章 2-(2)クルージングを参照。

表-1

Greek Tourism Business 88

No of Charter Flights and Passengers by country of origin of aircraft
 and by destination in Greece, 1985

AIRPORTS Country of origin of aircraft	GRAND TOTAL	
	No of Flights	No of Pass
Total	25,560	3,259,587
EUROPE	25,108	3,203,154
Austria	1,588	123,354
Belgium-Lux	562	66,777
Bulgaria	17	892
France	1,821	263,027
W.Germany	4,908	592,480
Yugoslavia	184	13,653
Switzerland	1,203	108,504
Great Britain	8,613	1,167,977
Spain	102	10,563
Italy	342	30,089
Cyprus	63	6,336
Holland	1,814	208,501
Hungary	136	9,820
Portugal	1	92
Rumania	9	774
Scandinavia	3,487	580,629
Czechoslovakia	11	854
Other	247	16,832
N. & S. AMERICA	103	30,848
USA	83	28,437
Canada	17	2,174
Other	3	237
ASIA	122	8,062
Israel	31	2,535
Lebanon	3	199
Turkey	2	114
Other	86	5,214
AFRICA	227	17,523
OCEANIA		

(3) 上下水道

上水道については、島山與部において送水管の水圧低下による汚水混入の問題はあるが、アテネ、テサロニキ等大陸部では問題ない。

下水道については、アテネも含め現在大部分を未処理のまま海中に放流しており、海洋汚染の観点からも下水処理が大きな課題となっている。

上下水道にかかる Ministry of Environment からのヒアリング結果については、付属資料 9 参照。

(4) 宿泊施設

ギリシャ国内の宿泊施設 (高級ホテルから木賃宿まで、すべて含む) についてみると表-3 のとおり。1986 年末においては、ホテル数で 5,488 軒、ベッド数で 359,377 となっており、1983 年に比較して軒数で 19% の増、ベッド数において 13% 増となっている。

ギリシャ国内の外国人宿泊施設利用率の月別統計を表-4に示す。夏場に集中して外国人の利用率が高まる。

地域別ホテルの稼働率を表-5に示す。ギリシャ全土の平均は58.5%であり、日本のホテル稼働率44.8%と比べ、かなり高い。特徴としてクレタ、ロードス、コス3島のホテルの稼働率は80%~90%と非常に高い。これはシーズンオフ時の冬期にホテルを閉鎖してしまうためと思われる。(統計調査方法確認必要)

月別ホテルの稼働率を表-6に示す。また、ホテルの等級分けについてのギリシャホテル協会からのヒアリング結果については付属資料9参照。

表-2

ΜΕΤΑΦΟΡΑΙ ΚΑΙ ΕΠΙΚΟΙΝΩΝΙΑΙ

XIV: 7. Μήκος του νεομοθετημένου και κυκλοφορουμένου έθνικου και έπαρχιακού οδικού δικτύου της Χώρας, κατά κατηγορίαν και κατάστασιν οδών: 1980-1984

Length of authorized and operated national and provincial road network of Greece, by category and condition of road: 1980-1984

Είς χιλιόμετρα	In kilometres					Category and condition of road network
Κατηγορία και κατάσταση του οδικού δικτύου	1980	1981	1982	1983	1984	
Σύνολον Ελλάδος						Greece, total
I. Έθνικόν οδικόν δίκτυον	8.781	8.725	8.689	8.534	8.792	I. National road network
Ός προς τό είδος οδοστρώματος						Type of pavement. Roads:
I. Όδοι μετά οδοστρώματος ...	8.716	8.684	8.660	8.513	8.767	I. Paved
α) Ασφαλτικοί τάπητες ή έμποτισμοί	8.129	8.346	8.387	8.279	8.544	a) Covered or impregnated with asphalt
β) Ασφαλτικά έπαλείψεις	142	63	24	—	—	b) Dressed by tar
γ) Σκυρωτά	167	16	4	10	17	c) Macadamized
δ) Αιμοχαλικόστρωτα	278	259	245	224	206	d) Graveled
2. Όδοι άνευ οδοστρώματος ...	65	41	27	21	25	2. Not paved
Ός προς την βετότητα των οδών						Condition of road
α) Καλή (φθορά έως 1%)	7.567	6.373	6.169	6.073	6.612	a) Good (damage up to 1%)
β) Μετρια (φθορά έως 5%)	817	1.407	1.558	1.585	1.474	b) Fair (damage up to 5%)
γ) Κακή (φθορά άνω 5%)	889	920	959	860	663	c) Bad (damage over 5%)
δ) Άσυχερης ή περιοδική	8	25	3	16	13	d) Periodically or not easily accessible
II. Έπαρχιακόν οδικόν δίκτυον ...	28.586	28.699	28.676	28.841	28.877	II. Provincial road network
Ός προς τό είδος οδοστρώματος						Type of pavement. Roads:
I. Όδοι μετά οδοστρώματος ...	24.463	24.416	24.352	24.996	25.176	I. Paved
α) Ασφαλτικοί τάπητες ή έμποτισμοί	12.400	13.847	14.437	15.587	16.537	a) Covered or impregnated with asphalt
β) Ασφαλτικά έπαλείψεις	3.214	2.566	2.624	2.381	2.228	b) Dressed by tar
γ) Σκυρωτά	412	219	204	191	125	c) Macadamized
δ) Αιμοχαλικόστρωτα	3.437	7.814	7.587	6.836	6.286	d) Graveled
2. Όδοι άνευ οδοστρώματος ...	4.123	4.253	3.324	3.846	3.701	2. Not paved
Ός προς την βετότητα των οδών						Condition of road
α) Καλή (φθορά έως 1%)	14.695	14.992	15.429	16.147	16.841	a) Good (damage up to 1%)
β) Μετρια (φθορά έως 5%)	8.122	8.253	8.266	7.773	7.395	b) Fair (damage up to 5%)
γ) Κακή (φθορά άνω 5%)	4.196	4.009	3.587	3.510	3.235	c) Bad (damage over 5%)
δ) Άσυχερης ή περιοδική	1.573	1.445	1.394	1.411	1.401	d) Periodically or not easily accessible

Πηγή: Διεθνείς Οδοποιίες Υπουργείον Δημοσίων Έργων.

Source: Road Construction Division—Ministry of Public Works.

表-3

Evolution of tourist accommodations in Greece over the period 1983-1986, by type & category

	1983		1984		1985		1986	
	units	beds	units	beds	units	beds	units	beds
Total all types	4,587	313,515	4,891	333,816	5,201	348,171	5,488	359,377
Luxury hotels	43	19,227	45	20,349	43	19,419	38	17,486
Category A hotels	204	64,761	210	66,781	222	71,566	227	72,868
Category B hotels	499	72,142	506	73,642	541	76,291	574	78,999
Category C hotels	1,522	91,319	1,567	94,789	1,615	97,162	1,675	100,146
Category D hotels	918	28,192	932	28,689	948	28,970	964	30,008
Category E hotels	516	11,876	579	13,416	664	15,164	713	16,289
Luxury bungalows*	3	591	3	591	3	591	3	591
Cat. A bungalows	4	1,256	5	1,334	5	1,334	6	1,444
Cat. B bungalows	16	1,627	20	2,449	20	2,458	20	2,732
Cat. C bungalows	6	377	5	358	7	446	9	514
Luxury motels	1	256	1	256	1	256	2	541
Cat. A motels	4	539	4	817	4	1,061	6	1,024
Cat. B motels	18	1,464	20	1,513	18	1,513	21	1,603
Cat. C motels	---	---	---	---	---	---	1	58
Furnished apts./Cat. A	63	2,950	66	3,238	71	3,559	79	3,836
Furnished apts./Cat. B	65	2,247	76	2,487	88	2,952	93	2,895
Cat. C. apartments	87	2,847	194	5,410	278	7,494	337	9,019
Cat. A rooms*	24	583	31	678	33	746	39	904
Cat. B rooms	367	11,047	400	11,295	420	12,531	458	13,396
Cat. A guesthouses	---	---	---	---	---	---	---	---
Cat. B guesthouses	6	281	5	190	4	159	4	153
Cat. C guesthouses	167	4,211	170	4,267	167	4,066	173	4,267
Inns	54	722	52	690	49	631	46	606

(Source: GNTO London Office)

表-4

Monthly foreign tourist visitor figures as percentages of annual total, for period 1982-1986 (includes cruise passengers)

	1982	1983	1984	1985	1986
Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
January	1.9	1.5	1.5	1.4	1.4
February	1.8	1.5	1.4	1.4	1.5
March	3.5	3.9	2.8	3.5	3.8
April	8.5	7.1	8.5	7.1	6.4
May	11.4	12.1	10.8	11.5	11.7
June	12.3	12.4	12.4	13.4	12.4
July	19.1	19.1	18.7	17.9	18.0
August	17.7	17.3	17.5	18.0	18.5
September	12.4	13.5	13.9	13.7	12.9
October	7.4	7.5	8.0	7.5	7.9
November	2.1	2.2	2.5	2.4	2.8
December	1.8	1.9	2.0	2.2	2.7

表-5

5. OCCUPANCY RATE OF HOTEL FACILITIES BY MONTH
AND BY REGION IN 1985

Athens	47.9%
Athens North Suburbs	26.8%
Apollo Coast	48.5%
Kammena Vourla	39.7%
Delfi	44.1%
Eretria-Aliveri	62.7%
Kylini	57.4%
Messini	44.5%
Corinthos-Patras	45.3%
Ermioni	55.5%
Methana-Poros-Galatas	42.5%
Makrygialos-Platamon	56.4%
Thessaloniki	49.4%
Moudania Ierissos	86.2%
Kavala-Thassos	51.2%
Pelio	32.4%
Sporades	65.1%
Kerkyra	78.8%
Ionian Islands	56.5%
Epirus	44.2%
Crete(North)	80.3%
Crete(South)	55.4%
Crete(Rest)	84.0%
Rodos	88.8%
Kos	94.7%
Dodecanisa(exc. Rodos Kos)	34.8%
Cyclades	42.9%
Islands of Aegean Sea	43.6%
Rests Parts of Greece	40.9%
Occupancy Rate Total	58.5%

出典：GNT0

表-6

January	25.8%
February	25.2%
March	28.6%
April	44.1%
May	60.5%
June	69.7%
July	88.3%
August	96.8%
September	73.9%
October	50.9%
November	27.8%
December	27.0%

7月、8月の稼働率は88%~96%と非常に高く、ホテルのブッキングが困難なことがうかがえる。それに比較して11月から3月までは20%台であり、季節変動が大きい。

(5) 観光リクレーション施設

日本人の求めている、すばらしいエーゲ海の自然環境と、他国にない歴史的観光資源を持つ国であるが、それらを十分に観光資源として活用しているとは言い難い。

また、総合的な観光が楽しめるレクリエーション施設やショッピング施設等が十分整備されてい

表-7

INFRASTRUCTURE PROJECTS	BUDGETED COST (in millions of drachmas)							TOTAL
	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	
MARINAS								
IONIAN								
Couvas	—	60	260	375	170	—	—	865
Past	—	—	—	—	104	—	153	377
Argostoli	—	—	130	375	425	—	—	1,120
Zakynthos	—	—	130	300	340	—	—	770
Patras	—	—	—	300	425	—	210	1,410
S. PELLOPONNESE								
Pyllos	—	—	—	—	150	—	95	500
Kalamata	136	100	—	—	—	—	—	236
DODECANESIAN-AEGEAN								
Rhodes	—	260	375	425	190	—	—	1,250
Kos	—	260	300	340	—	—	—	900
Kerira	—	—	—	—	65	—	85	300
Chios	—	—	—	—	130	—	340	770
Limnos	—	—	—	—	75	—	95	340
THRACIAN SEA-THERMATIC GULF								
Alexandroupolis	—	130	300	340	—	—	—	770
Thessos	—	—	—	—	120	—	171	427
Chalkidiki	—	—	—	—	150	—	95	500
Thessaloniki	—	50	75	75	—	—	—	200
S. ELLOBOEAN-AEGEAN								
Syros	—	—	—	—	120	—	171	427
SARONIC-CORINTHIAN GULFS								
Faliron Delta	—	100	200	200	200	—	300	1,200
Ski centres	—	—	—	—	—	—	—	—
Panachaiion mountains (phase 2)	—	100	200	200	100	—	—	600
Spas	—	—	—	—	—	—	—	—
Kyfini	—	100	100	100	100	—	20	700
ARCHITECTURAL HERITAGE	BUDGETED COST (in millions of drachmas)							TOTAL
	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	
- Keflia building, Monemvasia	15	20	—	—	—	—	—	35
- Mansion, Leonidioi	12	18	—	—	—	—	—	30
- Pension and restaurant, Korymbos	36	34	—	—	—	—	—	70
- Mansion, Amvrosia, Halkidiki	12	8	—	—	—	—	—	20
PROMOTION	BUDGETED COST (in millions of drachmas)							TOTAL
	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	
- New tourist offices	—	20	25	25	25	30	30	155
- P.R. material	60	60	60	60	60	60	60	420
ADDITIONAL PROJECTS								
Ski centre Falakro	—	—	50	150	150	250	200	800
Ski centre Falakro	—	—	100	150	150	100	100	600
Ski centre	—	120	120	120	120	120	120	600

出典：GREEK TOURISM BUSINESS'88

るとは言い難い。

ただし、マリーナはギリシャ政府観光局が管理・運営するビーチがあり、水泳、水上スキー、ウインドサーフィンの設備がある。

1987年～1992年のマリーナ、スキー、温泉に関する投資計画は表-7のとおり。

2. 各観光地の現状と問題点

(1) アテネ市内

ギリシャ共和国の首都であるアテネは、Hellenikon 空港から約20kmの所にあり、車で30分ほどで到達することができる。

都市圏の人口は約300万人で、面積は380km²と広いが、観光の主なポイントはアクロポリスの丘と、その北東3kmにあるリカベトスの丘との間に集中している古代遺跡である。

ピレウスはアテネの南西約10kmの所にあるサロニコス湾に面した港で、アテネの外港となっており、アテネ大都市圏の一画をなしている。

ピレウスはギリシャ第一の商業港として栄えており、同時にエーゲ海クルーズの起点として、また、国際的に有名なマリーナの多くある所として、観光的にも重要な港湾都市としての位置を保っている。

アテネ市内の道路は一応整備されている。交通渋滞、排気ガスによる大気汚染に対処するため、偶数日は偶数ナンバーの車のみ、奇数日は奇数ナンバーのみが、運転を許されるという方法での走行自動車の数の制限、またトロリーバス化等により改善はされているものの、自動車の保有絶対数の増加により交通渋滞が慢性化しており、大気汚染も再び進みつつある。

タクシーも市内においては同様のナンバープレートの数による規制を受けるため、数が不足しており、最初の客と同方向へ向かう客を拾うため、事実上、乗合いタクシーと化し、空車を見つけるのが困難で、観光客にとっては利用しにくい交通手段となっている。

アテネ市内の観光スポットのみならず、ギリシャ全体の遺跡に共通する問題として、

- 1) 遺跡には名称、完成時、歴史や時代背景、完成時の予想図等、観光客のイメージを湧き立てるような装置もなく、魅力の演出が不十分である。遺跡の展示もガイドの説明なしでは瓦礫の山と変わらない部分も多くあり、さらに工夫が必要とされる。

また遺跡の入口も多くの観光客の訪問に対応するようにはなっておらず、入場券購入のための時間が長くなり、観光客に不便をかけている。

- 2) 市内の書店、または遺跡において販売されているガイドブックも日本語のものはほとんどなく、あっても小冊子程度のものしかない。ガイドの日本語のレベルもまちまちで、ヨーロッパ人とは異なる文化的背景を持つ日本人観光客への対応や遺跡の魅力を伝えるための方法等が不十分であると思われる。

3) 博物館の展示も数のうえでは豊富であるが、展示もメリハリがなく、散漫な印象を受ける。博物館においても日本語のプロッシャーや歴史や文化の流れ、物語に沿った展示のシナリオやテーマを考える等、展示の方法に工夫が欲しいところである。

(2) クルージング

クルージングの形態は下記のものがある。

(1)	1 day クルーズ	： 通年毎日	金額	25 \$
(2)	3 days クルーズ	： 4月～10月 毎金曜日	金額	360～750 \$
(3)	4 days クルーズ	： 4月～10月 毎月、金曜日	金額	480～1,000 \$
(4)	7 days クルーズ	： 4月～10月 毎ウイークデー	金額	840～1,750 \$
(5)	14 days クルーズ	： 5月～10月 隔金曜日	金額	1,515～3,115 \$

(冬期クルーズ船はカリブ海、メキシコ、南米へ)

多くの日本人が利用する1 day クルーズはイオニア海のイドラ、エギナ、ポロス3島を回るコースであり、パレオファリロ港から出航する1日クルーズである。

天候が良ければギリシャの自然環境を十分に満喫できるが、日本人には特に船旅が珍しいわけではなく、日光浴自体を楽しむレジャーもないため、島内にとどまる時間に比較して航海時間ばかりが長い1日クルーズは、たいくつすぎる。また船内で一般乗客に供される昼食もひどいものであり、島で昼食をゆっくりしたいと考える日本人観光客のほとんどは失望させられる。船内における日本人観光客へのヒアリングでも、もう一度1日クルーズをしたいという声は全く聞くことができなかった。

この1日クルーズはギリシャを訪問する日本人観光客のほとんどが利用するだけに、リピーターを増やすためには思い切った質の向上を図る必要があるものと思われる。

3島めぐりを2島にしても島でゆっくり時間をとり、島内を散策したり食事をしたり、お土産屋をのぞく時間をとってもらいたいという声を真剣に考慮すべきであると考えられる。

加えて、島内には案内板の整備がされていない場合が多く、少なくとも英語の案内板が欲しい。

3. 観光客の動向

(1) ギリシャ国の入国客の動き

ギリシャ国への入国者数(1956～1985年)を表-8に示す。年間の入国者数の変化を増加率で表わした図を図-2に示す。

1975年度から1985年度の10年間に年平均8.9%増加して、1985年度には700万人台に達した。

さらに、1986年度には734万人となり、1987年度についても1月～6月集計データでは

1986年度に比較して9.4%も増加している。

表-8

(2) ギリシャ国への入国客統計

① 居住地別

1974年から1985年の居住地別入国者数を表-9に示す。
1985年度の統計ではヨーロッパからの入国客が76%と大勢を占めており、特に、英国、西ドイツの入国客が多い。

② 利用交通手段・入国地点別

1984年と1985年の利用交通手段・入国地点別の入国者数を表-10に示す。1985年度の統計では、空路が69%と多いが、車12%、海路10%、クルージング船7%、陸路2%と続く。

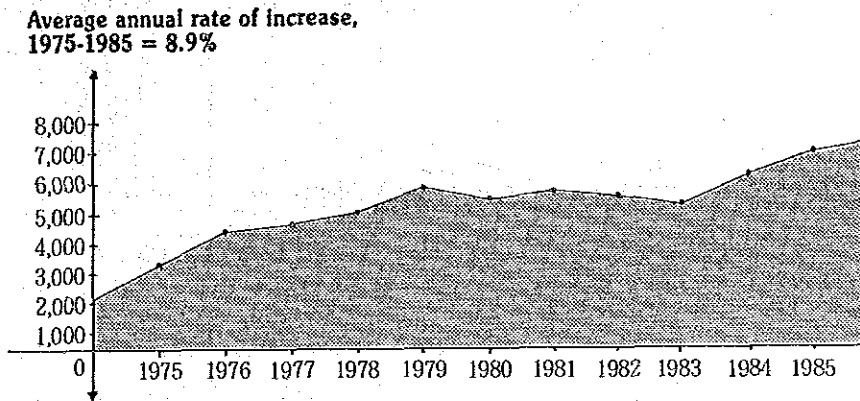
③ 月別

1985年の月別入国者数を表-11に示す。夏期に集中した分布である。5月から10月までの半期の入国者累計は578万人であり、年間の82%にも達する。

Year	Arrivals	Change
1956	218,301	—
1957	261,738	19.9
1958	276,534	5.7
1959	339,802	22.9
1960	399,438	17.6
1961	494,191	23.7
1962	597,924	21.0
1963	741,193	24.0
1964	757,495	2.2
1965	976,125	28.9
1966	1,131,730	15.9
1967	996,473	-11.9
1968	1,017,621	2.1
1969	1,305,951	28.3
1970	1,609,210	23.2
1971	2,257,994	40.3
1972	2,731,587	21.0
1973	3,177,682	16.3
1974	2,188,304	-31.1
1975	3,172,986	45.0
1976	4,243,563	33.7
1977	4,597,354	8.1
1978	5,081,033	13.9
1979	5,798,360	14.1
1980	5,271,115	-9.1
1981	5,577,109	5.8
1982	5,463,060	-2.0
1983	5,258,372	-3.7
1984	6,027,266	14.6
1985	7,039,428	16.8

出典：GREEK TOURISM BUSINESS '88

図-2



出典：GREEK TOURISM BUSINESS '88

④ 入国目的

1984年と1985年の入国目的別の統計を表-12に示す。観光目的が82%と圧倒的に多い。

⑤ 性別・年齢別

⑥ 職業別

⑦ 訪問別

⑧ 国籍別旅行消費額(平均261\$ 滞在日数14日)

資料要求中

表-9(1)

TOURIST ARRIVALS TO GREECE FROM ALL COUNTRIES						
	1974	1975	1976	1977	1978	1979
EUROPE	1,165,966	1,903,567	2,780,580	2,879,622	3,367,239	3,753,184
Austria	48,240	81,996	126,290	132,553	150,717	151,570
Bel/Lux	26,898	38,414	54,410	62,835	82,557	123,760
Bulgaria	5,695	10,605	8,368	10,501	26,321	52,506
France	128,208	223,756	311,513	276,468	347,627	319,483
W.Germany	234,356	397,405	518,645	489,522	520,547	555,171
Yugoslavia	138,455	259,885	433,716	490,699	514,529	572,777
Denmark	36,516	50,099	74,729	90,802	128,095	126,320
Switzerland	50,384	66,879	97,550	115,325	126,743	143,334
United Kingdom	244,610	319,510	433,539	384,076	514,485	559,657
Ireland	6,221	6,810	12,611	10,187	15,332	28,606
Spain	9,272	16,237	26,659	25,729	24,174	51,247
Italy	64,333	137,882	138,281	164,631	214,678	264,646
Cyprus	15,771	23,403	44,175	43,635	90,730	115,807
Norway	11,455	19,659	36,501	50,524	55,885	83,385
Holland	40,268	59,378	100,425	106,448	122,054	141,069
Hungary	*****	*****	*****	11,450	21,761	24,678
Poland	*****	*****	*****	40,600	32,571	36,662
Portugal	2,923	3,792	5,386	10,287	5,371	8,907
Romania	2,263	3,037	4,653	5,693	11,157	24,292
Sweeden	57,080	109,644	233,963	252,600	254,793	222,416
Czechoslovakia	*****	*****	*****	*****	*****	*****
Finland	21,807	44,823	58,213	63,885	81,462	110,923
Others	21,211	30,353	60,953	41,172	25,650	34,948
MID/EAST & ASIA	85,032	109,872	162,965	210,253	231,789	440,911
Japan	21,796	27,425	39,767	46,241	61,451	129,050
Israel	6,070	10,639	12,973	15,297	36,039	76,155
Leb/Syria	10,948	14,940	35,754	37,943	46,221	56,681
Turkey	21,102	23,426	27,168	42,551	49,761	98,197
Iran	*****	*****	*****	*****	13,865	8,768
Others	25,116	33,432	47,303	68,221	74,452	72,060
*****	*****	*****	*****	*****	*****	*****
AFRICA	44,762	49,766	76,254	109,136	126,518	92,202
Egypt/Sudan	16,774	18,333	29,620	46,036	50,810	42,048
South Africa	15,558	14,018	16,697	26,304	32,001	24,879
Others	12,431	17,415	29,943	36,796	43,707	25,295
AMERICA	425,576	522,437	575,098	685,555	634,078	764,195
Argentina	*****	*****	*****	*****	12,184	21,911
Brazil	*****	*****	*****	*****	12,850	22,415
Mexico	*****	*****	*****	*****	7,095	12,171
U.S.A.	371,795	458,575	493,008	598,470	513,181	601,456
Canada	39,847	43,480	55,308	54,043	75,326	83,662
Others	13,934	20,382	26,782	33,042	13,442	22,580
SOUTH PACIFIC	44,391	54,640	74,269	72,641	107,861	161,569
Australia	40,329	50,035	67,129	60,649	91,149	133,540
Others	4,062	4,605	7,140	11,992	16,712	28,029
U.S.S.R.	*****	*****	*****	*****	5,116	4,543
UNDETERMINED	383	2,341	2,888	3,905	9,810	16,369
TOT. FOREIGNERS	1,766,111	2,642,623	3,672,054	3,961,112	4,532,411	5,232,973
ARR. BY CRUISE	231,890	332,864	398,357	499,972	548,622	565,387
GENERAL TOTAL	1,998,001	2,975,487	4,070,411	4,461,084	5,081,033	5,798,360

出典：GNTO

表-9(2)

TOURIST ARRIVALS TO GREECE FROM ALL COUNTRIES

.....Cont'd.

	1980	1981	1982	1983	1984	1985
EUROPE	3,834,289	4,139,498	4,119,360	3,722,829	4,407,819	5,400,887 ^{7/8}
Austria	187,312	146,818	144,332	195,381	227,918	282,468
Bel/Lux	70,124	78,946	64,119	76,442	76,825	89,056
Bulgaria	36,911	35,193	43,738	43,123	37,036	40,834
France	299,791	296,499	335,366	299,506	405,907	441,141
W.Germany	692,961	625,121	606,046	728,478	864,800	1,050,078
Yugoslavia	477,393	629,071	537,553	55,375	263,279	350,735
Denmark	130,684	131,918	148,100	148,626	124,037	160,792
Switzerland	154,696	143,844	149,497	173,830	156,995	205,662
United Kingdom	768,215	964,707	1,022,692	888,991	1,043,363	1,329,259
Ireland	19,061	23,484	25,646	27,245	30,515	39,032
Spain	32,906	31,579	27,331	31,021	37,091	40,791
Italy	197,006	225,479	223,922	327,610	328,598	364,177
Cyprus	81,346	106,106	97,101	103,249	94,449	101,032
Norway	88,772	96,072	132,360	130,608	106,608	144,152
Holland	179,842	170,002	139,286	153,672	192,879	280,309
Hungary	28,008	16,126	16,869	21,280	17,821	19,483
Poland	37,732	30,891	9,436	15,915	27,874	59,472
Portugal	4,919	5,458	5,305	5,204	6,119	9,029
Romania	11,991	10,245	8,088	7,454	7,333	7,154
Sweeden	235,592	252,146	267,934	189,921	194,356	223,956
Czechoslovakia	16,974	15,084	8,369	12,685	10,400	12,214
Finland	73,641	96,627	97,416	92,711	134,164	141,689
Others	8,412	7,982	5,150	5,612	5,322	8,043
MID/EAST & ASIA	300,761	305,826	288,194	325,415	298,739	294,705 ^{4/8}
Japan	75,666	75,154	74,802	82,029	86,476	92,802
Israel	31,278	45,561	31,347	49,188	31,887	18,227
Leb/Syria	43,588	43,647	42,625	46,116	40,433	38,086
Turkey	47,590	38,979	37,972	43,427	42,770	48,784
Iran	16,677	9,391	5,298	5,547	7,140	10,542
Other Mid/East	85,962	93,094	39,990	43,745	34,751	24,262
Other Asian	inc abv	inc abv	56,160	55,363	55,282	62,002
AFRICA	106,667	91,848	87,966	96,219	101,274	114,139 ^{2/8}
Egypt/Sudan	50,067	33,725	31,219	37,725	43,415	50,991
South Africa	24,721	22,870	25,661	25,690	26,130	23,487
Others	31,879	35,253	31,086	32,804	31,729	39,661
AMERICA	410,676	436,907	438,432	517,473	600,185	619,479 ^{9/8}
Argentina	53,365	16,063	7,144	9,317	7,394	8,427
Brazil	11,285	9,504	11,404	10,316	8,943	11,316
Mexico	7,448	10,948	6,301	5,526	9,664	13,697
U.S.A.	288,647	321,081	333,080	406,887	474,845	466,155
Canada	72,441	65,732	64,891	72,540	82,226	102,552
Others	15,490	13,579	15,612	12,887	17,113	17,332
SOUTH PACIFIC	132,373	112,051	94,131	94,998	110,608	136,878 ^{2/8}
Australia	110,609	100,822	85,886	83,230	96,953	121,894
Others	21,764	11,229	8,245	11,768	13,655	14,984
U.S.S.R.	8,298	5,279	5,654	6,770	7,407	7,738
INDETERMINED	2,836	2,940	3,089	3,663	2,160	496
1.TOT.FOREIGNERS	4,795,900	5,094,349	5,032,822	4,778,477	5,523,192	6,573,993
ARR. BY CRUISE	475,215	482,760	431,038	479,895	504,074	465,435 ^{7/8}
GENERAL TOTAL	5,271,115	5,577,109	5,463,860	5,258,372	6,027,266	7,039,428

IMPORTANT NOTES:

出典: GNT0

表-10 国内の空港の着(グループ別)(含クルージング)

	1984	1985		1985/1984
	5,523,192	6,573,993		19.0
I. 空 路	4,077,950	4,849,480	69%	18.9
1. アレクサンドカーポリス	9	114		1,166.7
2. アンドラビーダ	16,918	15,763		6.8
3. アラクソ	3,174	6,251		96.9
4. エレグシーナ	285	86		69.8
5. アテネ	2,091,660	2,256,309		7.9
6. ガキンソ	22,212	39,137		76.2
7. イラクリオ	600,984	733,756		22.1
8. ガロニカ	125,442	177,031		41.1
9. スイーラ	11,170	22,926		105.2
10. イオアニナ	573	687		19.9
11. カバラ	478	5,636		1,091.5
12. ケルキラ	408,045	529,684		29.8
13. ケファロニア	11,127	24,906		123.8
14. コ	159,993	232,340		45.2
15. メシニス	2	6		200.0
16. ミコノス	16,966	22,401		32.0
17. リムノ	866	1,338		54.5
18. ミティリニ	4,452	20,044		349.2
19. プレペザ	11,135	12,888		15.7
20. ロード	508,413	593,948		16.8
21. サーモス	43,707	75,997		73.9
22. スキアソ	25,180	34,997		39.0
23. ハニヤ	15,146	43,235		185.5
II. 陸 路	137,774	164,885	2%	19.7
1. ティケオン	535	595		11.2
2. イドメニニ	124,668	146,189		17.3
3. プロマホナ	4,615	6,380		38.2
4. ビフィウー	6,615	11,344		71.5
5. フワリナ	1,341	377		71.9
III. 海 路	618,499	685,831	10%	10.9
1. エレフシナ	1,482	1,071		25.7
2. イグメニーチャ	75,526	87,826		16.3
3. イラクリオ	14,516	12,861		11.4
4. サロニカ	1,008	823		18.4
5. ケルキラ	145,971	175,857		20.5
6. パトラ	227,641	256,217		12.6
7. ビレウス	35,164	45,087		28.2
8. ヒード	43,172	48,229		11.7
9. 他	74,059	57,860		21.9
IV. 車	688,969	873,797	12%	26.8
1. エブゾーノ	476,003	603,043		26.7
2. カスタネオン	4,993	5,512		12.0
3. キーボン	93,280	128,013		37.2
4. クリスタロピギス	349	671		92.3
5. カカビア	11	798		7,154.5
6. ニキス	44,000	51,536		17.1
7. プロマホーナ	70,403	84,224		19.6
V. クルージング船	504,074	435,435	7%	7.7
TOTAL	6,027,266	7,039,426		16.8

出典: GNT0

表-11

Month	Monthly Figures	
	1985	1986
January	97,218	107,323
February	97,034	110,758
March	247,405	279,368
April	497,791	466,884
May	811,194	857,560
June	944,819	912,259
July*	1,259,448	1,340,000*
August*	1,265,318	1,360,000*
September*	965,120	965,000*
October	529,414	
November	169,945	
December	185,720	
Total	7,039,428	

*Estimated (includes cruise passengers).

出典: GREEK TOURISM BUSINESS '88

表-12

	Distribution by purpose of visit	Foreign tourism
(1)	Transit	1%
(2)	Holidays	83%
(3)	Business Journeys	7%
(4)	Visits to friends and relatives	1%
(5)	Others	2%
(6)	Combination 1X2	2%
(7)	Combination 1X3	3%
(8)	Combination 1X4	1%

出典: GNT0

(3) ギリシャ国内旅行

1982年から1985年の地域別ギリシャ国内旅行者の統計を表-13に示す。国内旅行者数は430万人ほどで、アテネ、テッサロニキ等、都市への旅行者が多い。

表-14に月別ギリシャ国内旅行者の統計を示す。夏場に集中するものの、閑散月の倍ほどであり、海外旅行者の夏場の集中度に比べれば少ない。

7. DOMESTIC TOURISM 1982 - 1985
 NUMBER OF DOMESTIC TOURISTS IN GREECE BY DESTINATION
 AND BY MONTH.

	A	B	C	D	E
		1982	1983	1984	1985
1	ATHENS	649598	615325	628643	598399
2	ATHENS NORTH SUB.	52760	44300	48066	48275
3	APOLLO COAST	84020	74932	82483	85390
4	KAMMENIA VOURLA	43063	41833	44195	43054
5	DELFI	45868	44005	50055	48771
6	ERETRIA - ALIVERI	17948	10191	16324	19374
7	KYLINI	49964	41039	40039	36003
8	MESSINI	62110	58860	61857	62958
9	CORINTHOS - PATRAS	193605	194449	195496	182719
10	ERMIONI	34603	29951	33784	36396
11	METHANA-POROS-GALATAS	27034	22186	22823	21186
12	MAKRYGIALOS-PLATAMON	51577	45688	48297	62203
13	THESSALONIKI	456546	448354	455798	438876
14	MOUDANIA IERISSOS	64925	65292	76826	78562
15	KAVALA - THASSOS	113106	105515	119641	114618
16	PELIO	31093	29591	39340	42970
17	SPORADES	12430	9976	11514	14839
18	KERKYRA	88709	92076	95572	80368
19	IONIAN ISLANDS	67508	56724	75265	65543
20	EPIRUS	59688	63282	65018	70222
21	CRETE (NORTH)	187520	187189	197282	185710
22	CRETE (SOUTH)	6709	5821	4069	4535
23	CRETE (REST)	8207	10206	8592	10433
24	RODOS	61358	76645	102190	91058
25	KOS	12926	14836	18272	13814
26	DODECANISA (REST)	5903	5994	6741	7096
27	CYCLADES	75803	70451	75258	80920
28	ISLANDS OF AEGEAN SEA	53214	50501	55348	57109
29	RESTS PARTS OF GREECE	1742849	1680140	1727680	1733358
30	TOTAL	4360644	4195352	4406468	4334759

出典：GNT0

表- 14

	1982	1983	1984	1985
January	281,264	259,882	276,216	256,201
February	278,423	216,936	250,005	252,662
March	291,214	291,754	302,305	300,239
April	429,932	351,896	408,663	370,413
May	341,081	348,328	315,527	300,659
June	375,461	365,866	394,232	391,062
July	543,695	529,061	568,218	579,565
August	578,721	568,939	589,047	605,464
September	415,180	402,855	434,270	423,272
October	283,695	328,105	320,240	313,227
November	269,075	263,631	269,669	271,339
December	272,903	268,099	278,076	270,596
TOTAL	4,360,644	4,195,352	4,406,468	4,334,759

出典：GNT0

8. GREEK OVERSEAS TRAVELERS 1982 - 1985
NUMBER OF GREEK OVERSEAS TRAVELERS BY DESTINATION

	1982	1983	1984	1985	
TOTAL	1,434,290	1,367,100	1,491,780	1,579,014	
<u>EUROPE</u>	1,091,730	1,065,780	1,385,510	1,157,328	23%
Austria	19,450	18,210	20,570	23,085	
Belgium	36,460	37,090	40,860	41,553	
Bulgaria	120,120	105,320	100,070	81,567	
Cyprus	30,760	30,840	33,440	40,014	
France	63,490	60,860	66,620	66,177	
West Germany	343,610	335,380	351,330	363,204	23%
Yugoslavia	104,630	100,710	119,520	126,198	2%
Switzerland	31,920	32,650	35,310	36,936	
Untd. Kingdom	78,030	80,430	84,730	89,262	
Spain	13,900	12,500	14,450	16,929	
Italy	155,200	157,230	165,820	166,212	10.5%
Netherlands	18,660	19,170	22,950	24,624	
Hungary	16,130	15,020	18,520	18,468	
Romania	28,570	27,180	27,590	23,085	
Sweden	14,810	14,420	13,170	15,390	
Others	15,990	18,770	23,560	24,624	
<u>ASIA</u>	174,230	140,120	181,600	240,084	15%
Turkey	126,520	97,800	138,900	196,992	25%
Arabia	20,570	17,500	16,440	13,851	
Others	27,140	24,820	26,260	29,241	
<u>AFRICA</u>	40,580	37,220	39,680	36,936	2%
Egypt	18,390	18,170	20,500	16,929	
Others	22,190	19,050	19,180	20,007	
<u>AMERICA</u>	72,300	71,350	76,160	78,489	5%
U.S.A.	58,920	58,600	61,610	61,560	
Canada	10,020	9,810	11,040	12,312	
Others	3,360	2,940	3,510	4,617	
<u>OCEANIA</u>	6,250	5,980	6,400	7,695	0.5%
Australia	6,060	5,890	6,400	7,695	
Others	190	90	-----	-----	
<u>U.S.S.R.</u>	18,440	15,810	15,990	18,468	1%

出典：GNT0

(4) ギリシャ人の海外旅行

地域別ギリシャ人海外旅行者数を表-15に示す。1985年度の総数は158万人であり、海外旅行者受入数700万人に比べれば少なく、観光立国であることがうかがえる。

ギリシャ人海外旅行者数の内訳は、近隣のヨーロッパ諸国が圧倒的に多く116万人であり、全体の73%を占める。また隣国のトルコを含めれば全体の85%にもなる。

4. 旅行業界

日本人旅行者を扱っている日本の旅行社及び、その取扱先のローカルエージェントを別紙-1に示す。登録業者数や制度等については不明で資料要求中。

5. 通訳案内業者

ギルドの規制があり、日本語のガイドは20数名である。通訳養成学校の内容及びカリキュラムについては資料要求中。

6. ヨーロッパ在留邦人のギリシャ観光の可能性

1985年現在のヨーロッパの在留邦人は69,384人である。(別紙-2)北アメリカ17万人、南アメリカ15万人と比較すると少ないが、ヨーロッパの進出企業(別紙-3)のインセンティブ・ツアーによる日本人のギリシャ観光客増大への可能性があると思われる。

なお61年3月末現在のヨーロッパの現地法人の雇用者数は17万人である。

7. その他

(1) 旅行者の外貨関連制限

ギリシャ政府は外貨流出を防ぐために、別紙-4に示す外貨関連制限を実施している。日本人旅行者には不自然な制度であり、リピーターを減少させる要因となっていると思われる。

(2) 日本の企業投資

貨幣（ドラクマ）の価値の変動、労働者の質、外貨の持出し制限等の理由により、日本企業の進出は少ない。別紙-5に進出企業一覧を示す。

ギリシャ国への日本企業、日系企業の特徴は、ギリシャ市場を目的とした企業進出ではなく、中近東・アフリカ地域をカバーした営業活動のための駐在員事務所（当国の法律でいわゆるLAW 89といわれるもので、ギリシャ国内での営業活動ができない）が多いことである。各社とも常駐駐在員は数名にすぎず、進出企業数に比較して企業関係者の数は少ない。

(3) 地中海クラブ

地中海クラブは全世界で107カ所のバカンス村があり、約6万人のベッド宿泊施設収容能力がある。そのうちヨーロッパ地域には95カ所約5万人のベッド宿泊施設収容能力があり、この地域に集中している。

ギリシャにはコルフ島に3カ所、その他4カ所に合計7カ所のバカンス村がある。別紙-6(1)、(2)に所在地を示す。

入れ込み状況、今後の進出計画等、要調査。

別紙-1

2) AGENT LIST (主に日本人団体を取り扱っているギリシャのローカルエージェント)

A) NI HECO ENTERPRISES (NIPPON HELLENIC TOURIST)

日本交通公社, 日本旅行, 近畿日本ツーリスト, 日本通運, 阪急交通社, 東急観光, 読売旅行, 京阪交通社, リクルート, グローバルユース, ほか

B) HELLENIC TOURS

日本交通公社, 日本通運, 日本旅行, ほか (JCT/UNIT)

C) OHSHU EXPRESS GREECE

日本旅行, 日本通運, 東急観光, 東武トラベル, ほか

D) VARVIAS TOUR

日本交通公社

E) MANOS TRAVEL

(日本クリエイティブ旅行) (JAL-PACK)

JCT/旅行開発

F) ARVANITIS TRAVEL

近畿日本ツーリスト

G) AMFITRYON TRAVEL

近畿日本ツーリスト, 朝日海外旅行, 新日本トラベル, ほか

☆他に3~4社が日本人団体をHANDLINGしているが, 上記7社で90%以上を動かしている。

海外在留邦人数

国	1980年		1985年							永住者
	総数	長期滞在者	総数	長期滞在者	民間企業関係者	自出業者関係者	留学者・研究者	政府関係職員		
世界	445,372	193,820	480,739	237,488	159,193	5,135	40,566	18,057	243,251	
アジア	62,689	55,466	68,274	62,176	52,014	547	2,049	5,847	6,098	
インドネシア	6,026	6,020	6,524	6,494	5,549	25	74	749	30	
大韓民国	3,040	2,451	2,567	2,153	1,552	66	115	230	414	
シンガポール	8,140	8,061	8,077	7,998	7,508	44	9	376	79	
タイ	6,424	5,607	7,852	7,418	5,855	65	126	892	434	
中華人民共和国	6,199	1,366	8,415	4,538	3,017	0	1,153	277	3,877	
台湾	5,022	4,722	5,088	4,829	4,346	73	194	195	259	
香港	7,795	7,687	8,974	8,617	7,962	45	30	230	357	
北アメリカ	139,367	65,996	170,547	87,289	53,401	1,201	23,687	3,499	83,258	
アメリカ合衆国	121,180	58,078	146,104	77,252	46,883	975	22,045	2,523	68,852	
カナダ	12,280	3,990	16,995	5,284	3,153	135	1,503	218	11,711	
メキシコ	3,157	1,982	2,774	1,893	1,418	20	96	259	881	
南アメリカ	178,336	11,495	154,503	9,060	6,683	108	98	1,844	145,443	
アルゼンチン	15,887	607	15,660	681	452	1	4	221	14,979	
ブラジル	141,580	7,343	120,276	4,939	4,188	28	54	629	115,337	
ヨーロッパ	49,656	46,482	69,384	62,840	35,896	3,116	13,751	4,206	6,544	
イギリス	10,943	10,347	19,889	18,257	13,686	378	2,632	922	1,632	
イタリア	3,013	2,817	3,442	3,070	1,251	356	965	231	372	
ドイツ連邦共和国	13,991	13,597	16,073	14,696	8,397	660	3,361	503	1,377	
フランス	6,842	6,632	12,156	11,468	3,314	1,041	4,898	893	688	
ギリシャ			1,035	496	365	41	24	66	539	
アフリカ	8,161	8,142	7,662	7,599	5,259	84	138	1,814	63	
オセアニア	6,187	5,363	9,538	7,701	5,477	79	807	629	1,837	
オーストラリア	5,007	4,418	7,466	5,986	4,332	43	688	376	1,480	
ニュージーランド	659	432	1,068	729	492	15	97	65	339	
ソ連	976	876	831	823	463	0	36	218	8	

注 (1) 外務省「海外在留邦人数調査統計 1981, 1986年」による。

(2) 国外にいる10月1日現在の邦人数で、日本国籍を有しない日本人を除く。

(3) 「長期滞在者」は3カ月以上の外国滞在者で、永住者でない邦人。職業別内訳には、それぞれの家族を含む。

(4) 「永住者」は日本国籍保有者で、当該在留国から永住権が認められている者。

日本企業の地域別・年次別進出状況（総括表）

世界	進出年次別・現地法人数		主 業 種	（進出年次別）の進出件数		合計	（進出年次別）の進出件数		合計	（進出年次別）の進出件数	合計
	69年	70年		69年	70年		69年	70年			
アフリカ	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
アジア	15	15	電気機器	15	15	30	15	15	30	15	15
オセアニア	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
北米	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
南米	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
中東	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
ヨーロッパ	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
合計	33	33		33	33	66	33	33	66	33	33
アフリカ	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
アジア	15	15	電気機器	15	15	30	15	15	30	15	15
オセアニア	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
北米	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
南米	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
中東	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
ヨーロッパ	1	1	電気機器	1	1	2	1	1	2	1	1
合計	33	33		33	33	66	33	33	66	33	33

出典：通産省 海外進出企業総覧

外貨関連制限

1. 入国時の申告

現金にてUS \$ 1,000 相当/人以上を持ち込む際は、入国時に税関に申告し、証明書をもらう。

2. 出国時の外貨持ち出し制限額

1項の証明書があれば、その範囲で持ち出し可能。証明書がなければ、現金US \$ 1,000 相当/人まで。

3. 外貨への換金

US \$ 100 相当/人までは、問題なし。これを超えるには、1項の証明書を保持しなければならない。証明書の持ち込み額まで換金可能。

4. ドラクマの持ち出し制限

10,000 ドラクマ/人まで可能。

(参考)ギリシャ人の外貨持ち出し制限

EEC内旅行：US \$ 960 相当/人

その他の国：US \$ 700 相当/人

別紙 5 (1)

(A) 本邦企業（現地法人化されていない企業）

(1) 支店	1
(2) 駐在員事務所，出張所等	33
小計 (1) + (2)	34

(B) 現地法人化された邦系企業

(1) 本邦企業が100%出資した企業	11
(a) 本店	6
(b) 支店，駐在員事務所，出張所等〔注〕	5
(2) 合併企業	3
小計 (1) + (2)	14

総計	
(A) + (B)	48

〔注〕第三国で邦人化されている邦系企業の支店，
駐在員事務所，出張所等も含む。

別紙 5(2)

■ 企業名

本邦企業	支店	日本航空	
	駐在員事務所	別紙記載の33社	
現地法人化された邦系企業	本店	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄興社ヘラス 2. 美智子レストラン 3. 京都レストラン 4. 将軍レストラン 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 日本ヘレニックツアーズ 6. トヨタヘラス(本邦企業駐在員事務所が現地法人化された邦系企業に変更)
	支店等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤忠ギリシャ 2. ギリシャ住友商事 3. ギリシャ三菱商事 4. 丸紅ギリシャ 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 吉田ヘラス
	合併企業	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘレニック・スチール 2. 日立セールスヘラス 3. 日立カルメルヘラス 	

別紙 5 (3)

Ⅲ 企業名

本邦企業の駐在員事務所

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. オリエントリース | 18. 横 浜 ゴ ム |
| 2. 大阪商船三井船舶 | 19. 東 京 光 学 機 械 |
| 3. 日 本 郵 船 | 20. オ ー ツ タ イ ヤ |
| 4. 住 友 ゴ ム 工 業 | 21. 神 戸 製 鋼 所 |
| 5. 東 洋 ゴ ム 工 業 | 22. 長 田 通 商 |
| 6. 茶 谷 産 業 | 23. ト ー メ ン |
| 7. 日 商 岩 井 | 24. 中 国 塗 料 |
| 8. 日 本 電 池 | 25. 城 山 産 業 |
| 9. 三 井 物 産 | 26. 丸 紅 |
| 10. シ ャ ー プ | 27. 日 本 た ば こ 産 業 |
| 11. 兼 松 江 商 | 28. 日 本 海 事 協 会 |
| 12. 帝 人 | 29. 世 界 日 報 社 |
| 13. 佐 世 保 重 工 業 | 30. 旭 化 成 工 業 |
| 14. 住 友 化 学 工 業 | 31. 大 建 工 業 |
| 15. 吉 田 工 業 | 32. コ ニ カ |
| 16. 松 下 電 器 貿 易 | 33. 富 士 貿 易 |
| 17. 東 芝 | |



地中海クラブ
CLUB MED バカンス村所在地

GRÈCE (ギリシャ)

エギオン
ランブリ
25100 エギオン
Telex : 312312 +

コルフ-イブソス
イブソス
49100 コルフ島
Telex : 332127 +

コルフ-ヘリオス
ニサキ
49100 コルフ島
Telex : 332189 +

ヘリオス
ピルギ

グレゴリマノ
グレゴリマノ
エウボイア島
34300 AIDIPSOS
Telex : 272163 +

コス島
ケファロス-コス
85301 コス島
Telex : 292324

オリンピア
スカフィディア
B.P. 58
27100 ビルゴス-イリアス
Telex : 372159 +

第5章 ギリシャ観光にかかわる日本側需要動向

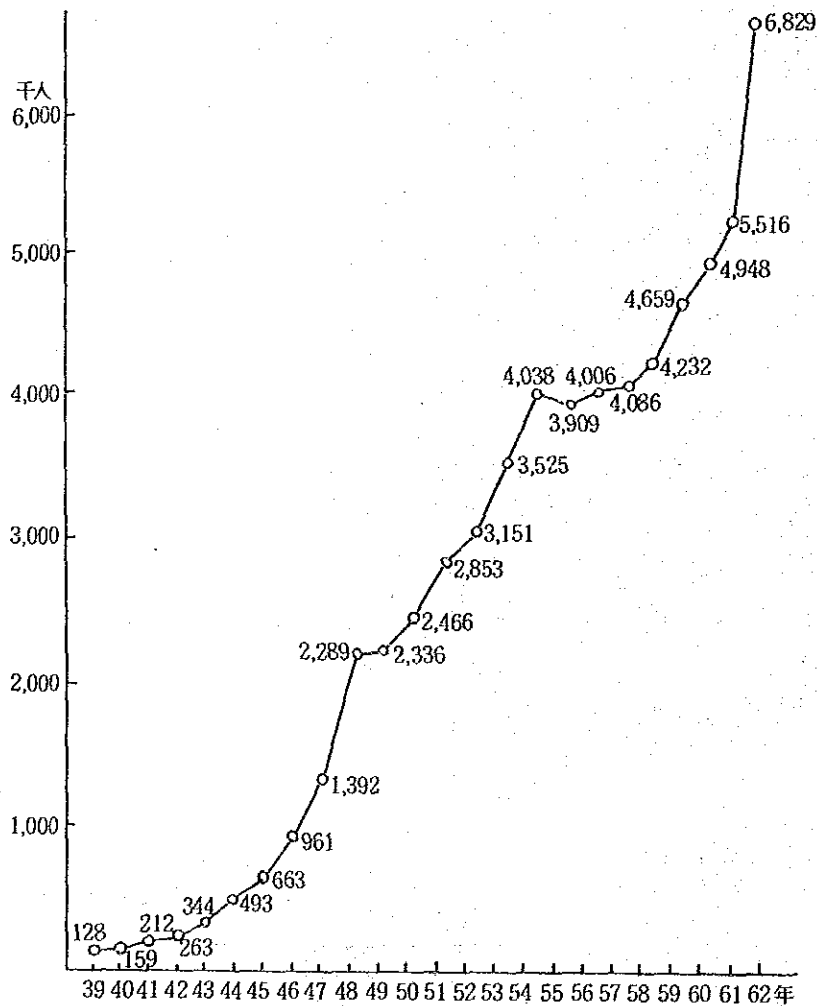
1. 日本人旅行者数の推移

(1) 概況

1) 日本人海外旅行者数は、所得水準の向上、自由時間の増大、パッケージツアーの普及等により着実に増加してきており、特に最近は円高による海外旅行の割安感から大幅な増加がみられ、昭和62年には683万人と、初めて600万人の大台を超え、史上最高を記録した。

これを渡航目的別にみると、アジア州が約半数を占め、次いで北アメリカ州、ヨーロッパ州の順になっている。その傾向をみると、アジア州のシェアが低下し、かわって西海岸が人気の北アメリカ州、広大な自然と珍獣に人気のオセアニア州が上昇しており、ヨーロッパ州は、その中であって、安定したシェアを保っている。

図-3 日本人海外旅行者数

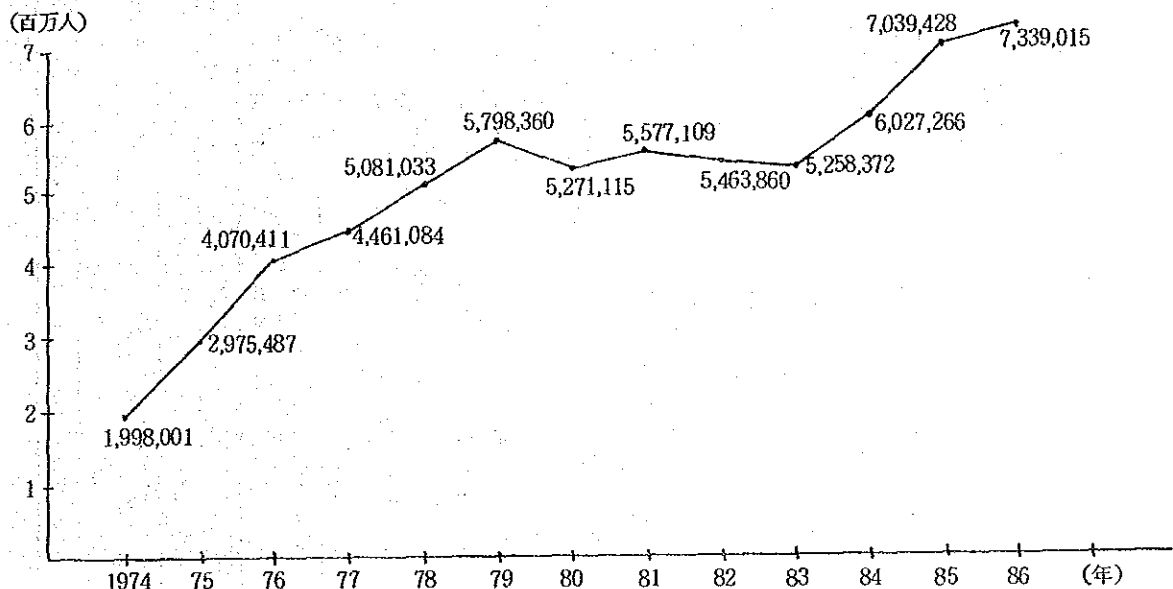


(注) 法務省資料に基づく運輸省集計による。

また、ヨーロッパ州各国のうちではフランス、イギリス、西ドイツのシェアが大きく、ギリシャは3%前後にすぎない。その傾向をみると、ロマンチック街道、メルヘン街道などの一連のプロモーションが効を奏し、大幅な旅行者増となった西ドイツやイタリア、スペインがシェアを伸ばしてきているのに対し、ギリシャは伸び悩んでいる。(表-16)

2) 次にギリシャを訪れる旅行者をみると、一時伸び悩みはあったものの、着実に増加し、1985年には700万人を超えた。これを地域別にみると、やはり近場のヨーロッパからの旅行者が圧倒的に多く、全体の4分の3以上を占めており、日本人旅行者は1%程度にすぎない。これは同じ太平洋上の島国であるオーストラリアからの旅行者とほぼ同じであり、休暇制度の違い(例えば、オーストラリアにおける奨励金付有給休暇制度)、全国民に占める海外旅行者の割合(日本4%、オーストラリア10%)、人口比等を考慮しても、かなり少ないといえよう。また、その傾向をみると、ヨーロッパからの旅行者が大幅に増加しているのに対し、アメリカからの旅行者が大きく落ち込み、中東・アジア(うち日本人のシェアは30%前後)は横ばいを示している。(図-4)

図-4 ギリシャを訪問した旅行者数の推移



注. ギリシャ政府観光局資料による。

表一 16(1) 渡航先別日本人出国者数 (昭和53～62年)

(単位:人)

年 地 域	昭和53年		昭和54年		昭和55年		昭和56年		昭和57年		昭和58年		昭和59年		昭和60年		昭和61年		昭和62年	
	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)
1.ヨーロッパ	363,609	10.3	427,795	10.5	392,219	10.0	407,683	10.2	422,911	10.4	437,935	10.5	488,726	10.5	535,296	10.8	579,807	10.5	707,042	10.4
イギリス	87,820	2.5	97,295	2.4	86,811	2.2	90,596	2.3	90,026	2.2	91,954	2.2	106,245	2.3	118,885	2.4	132,392	2.4	165,897	2.4
西ドイツ	38,029	1.1	46,109	1.1	47,607	1.2	51,573	1.3	54,906	1.3	58,410	1.4	68,697	1.5	79,762	1.6	86,785	1.6	104,892	1.5
フランス	144,128	4.1	166,622	4.1	145,339	3.7	144,213	3.6	145,224	3.6	145,396	3.4	153,381	3.3	158,778	3.2	170,314	3.1	207,118	3.0
イタリア	16,664	0.5	23,650	0.6	20,921	0.5	22,855	0.6	25,893	0.6	27,311	0.6	32,261	0.7	35,977	0.7	40,906	0.7	51,255	0.8
スペイン	11,123	0.3	12,842	0.3	12,679	0.3	14,088	0.3	14,873	0.4	16,342	0.4	18,573	0.4	22,020	0.4	25,114	0.5	34,230	0.5
スイス	14,614	0.4	17,232	0.4	18,209	0.5	19,973	0.5	21,803	0.5	24,307	0.6	26,128	0.5	28,735	0.6	31,203	0.6	35,732	0.5
オランダ	4,966	0.1	5,737	0.1	5,891	0.2	6,045	0.2	6,533	0.2	8,117	0.2	10,011	0.2	11,606	0.2	12,412	0.2	-	-
スウェーデン	2,775	0.1	3,139	0.1	3,297	0.1	3,386	0.1	3,733	0.1	3,797	0.1	4,670	0.1	4,890	0.1	5,221	0.1	-	-
デンマーク	2,910	0.1	3,126	0.1	3,479	0.1	3,484	0.1	3,518	0.1	3,537	0.1	3,894	0.1	4,292	0.1	4,398	0.1	-	-
ノルウェー	1,322	-	1,737	-	1,729	-	1,913	-	2,076	0.1	2,606	0.1	3,173	0.1	-	-	-	-	-	-
ギリシャ	-	-	1,338	0.3	1,949	0.3	1,854	0.3	1,556	0.4	1,675	0.4	1,803	0.4	1,822	0.4	1,650	0.3	1,654	0.2
ソビエト	16,492	0.5	17,649	0.4	14,766	0.4	15,408	0.4	15,032	0.4	14,996	0.4	16,042	0.3	17,887	0.4	17,738	0.3	21,094	0.3
ベルギー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5,575	0.1	6,042	0.1	-	-
その他	22,766	0.6	19,319	0.5	19,542	0.5	20,502	0.5	21,628	0.5	24,411	0.6	27,617	0.6	28,567	0.6	30,778	0.6	70,315	1.0
2.アジア	191,458	54.3	211,624	52.4	199,802	51.1	202,475	50.5	204,127	50.0	209,640	49.6	227,821	48.9	240,678	48.6	270,256	49.0	332,134	48.6
3.アジア	18,984	0.5	22,233	0.6	23,212	0.6	25,041	0.6	26,785	0.6	28,708	0.7	31,638	0.7	33,106	0.7	31,610	0.6	34,421	0.5
4.北アメリカ	115,468	32.6	138,343	34.3	138,260	35.4	141,264	35.3	143,782	35.2	148,537	35.2	164,783	35.4	174,168	35.2	193,244	34.9	241,232	35.3
5.南アメリカ	24,999	0.7	26,607	0.7	28,851	0.8	29,084	0.7	28,790	0.7	26,999	0.5	27,370	0.5	29,212	0.6	30,631	0.6	32,161	0.5
6.オセアニア	42,298	1.2	57,672	1.5	79,878	2.0	99,819	2.5	121,037	2.9	148,492	3.5	179,355	3.8	202,289	4.1	248,242	4.5	321,909	4.7
7.その他	5,955	0.2	5,037	0.1	4,552	0.1	7,394	0.2	7,555	0.2	7,575	0.2	5,691	0.1	69	-	91	-	128	-
総 数	352,510	100.0	403,829	100.0	390,933	100.0	400,638	100.0	408,613	100.0	423,246	100.0	468,833	100.0	494,866	100.0	551,619	100.0	682,938	100.0

注 法務省「出入国管理統計年報」による。

表-16(2) ギリシャを訪問した旅行者数(1977~86年)

(単位:人)

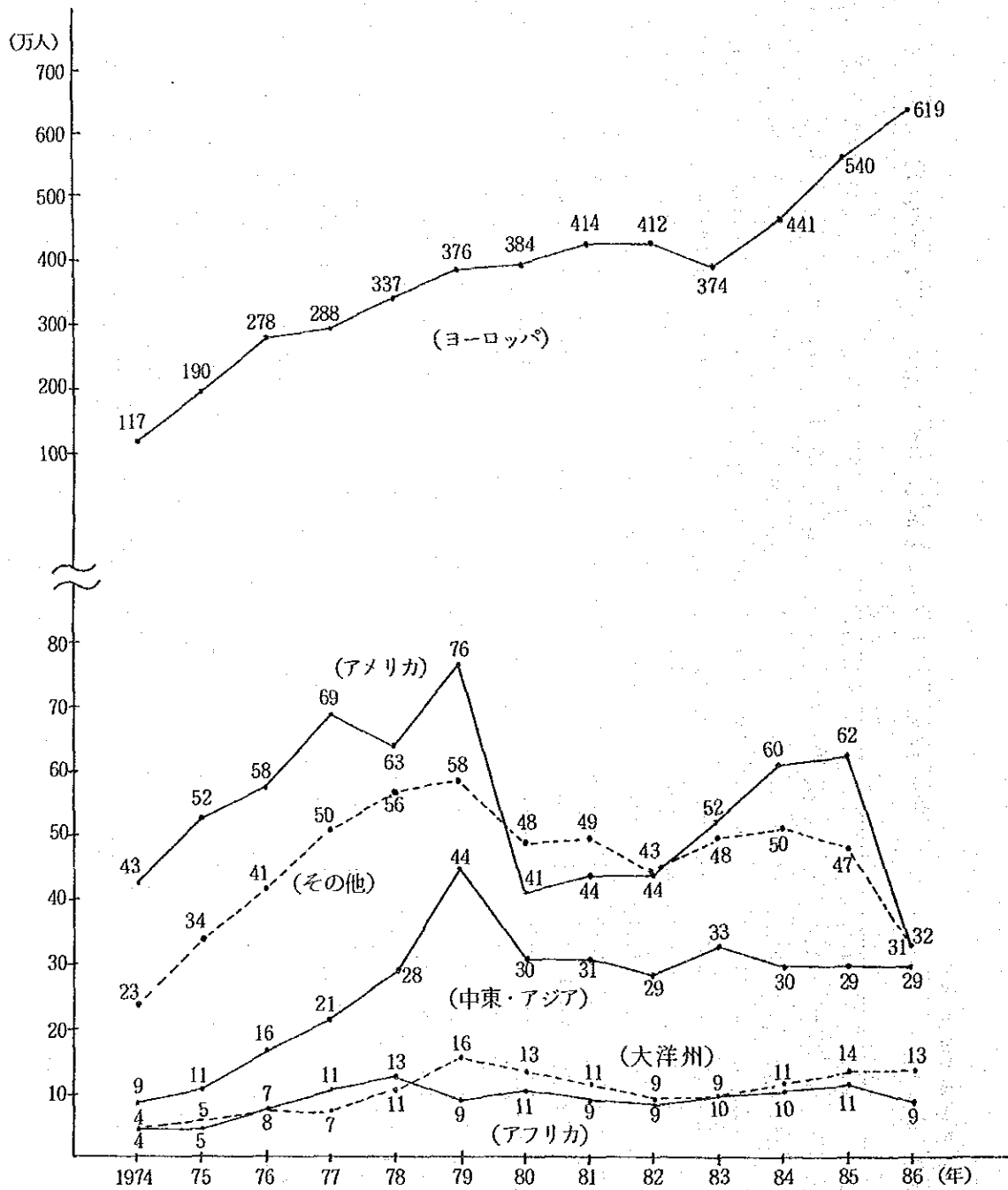
年	1977年		1978年		1979年		1980年		1981年		1982年		1983年		1984年		1985年		1986年		
	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)	
1.ヨーロッパ	287,962	646	337,235	664	375,727	648	384,268	730	414,477	743	412,101	754	374,079	711	441,026	731	540,629	768	619,384	843	
イギリス	384,076	86	514,485	101	559,657	97	768,215	146	964,707	173	1,022,692	187	888,991	169	1,043,363	173	1,329,259	189			
ドイツ	489,522	110	520,547	103	555,171	96	682,961	131	625,121	112	606,046	111	728,478	139	864,800	143	1,050,078	149			
ユーゴスラビア	490,699	110	514,529	101	572,777	99	477,393	91	629,071	113	537,553	98	553,751	111	263,209	44	350,735	50			
フランス	276,468	62	347,627	69	319,483	55	299,791	57	296,499	53	335,366	62	299,506	57	405,907	67	441,141	63			
イタリア	164,631	37	214,678	42	264,646	45	197,006	37	225,479	40	223,222	41	327,610	62	328,598	55	364,177	52			
スウェーデン	252,600	57	254,793	50	222,416	38	235,592	45	252,146	45	267,934	49	189,921	36	194,356	32	223,956	32			
スイス	115,325	26	126,743	25	143,334	25	154,696	29	143,844	27	149,497	27	173,830	33	156,995	26	205,662	29			
オーストリア	132,553	30	150,717	30	151,570	26	187,312	36	146,818	26	144,032	26	195,361	37	237,918	39	282,468	40			
デンマーク	90,802	20	128,095	25	126,320	22	130,684	25	131,918	24	148,100	27	148,626	28	124,037	21	160,792	23			
その他	482,946	108	600,141	118	842,353	145	699,937	133	729,174	131	685,868	126	732,991	139	791,043	131	1,000,028	142			
2.中央・アジア	210,253	47	281,789	55	440,911	176	300,761	57	305,826	55	288,194	53	325,415	62	298,739	50	294,705	42	291,066	40	
日本	46,241	10	61,451	12	129,050	22	75,666	14	75,154	13	74,802	14	82,029	16	86,476	14	92,802	13	85,075	12	
3.アジア	109,136	24	126,518	25	92,202	16	106,667	20	91,848	16	87,966	16	96,219	18	101,274	17	114,139	16	85,433	12	
4.アメリカ	685,555	154	634,078	125	764,195	131	410,676	78	436,907	73	438,432	80	517,473	99	600,185	100	619,479	88	321,455	44	
5.南太平洋	72,641	16	107,861	21	161,569	28	132,373	25	112,051	20	94,137	17	94,998	18	110,608	18	136,878	20	132,388	18	
オーストラリア	60,649	14	91,149	18	133,540	23	110,609	21	100,822	18	85,886	16	83,230	16	96,953	16	121,894	17	116,272	16	
6.不明	39,051	9	98,101	19	163,691	33	23,361	4	29,401	5	30,991	5	36,631	6	21,601	3	49,601	7	48,301	6	
7.クルーズ	499,972	112	548,622	108	565,367	98	475,215	90	482,760	87	431,038	79	479,895	91	504,074	84	465,435	65	314,236	43	
総数	446,1084	1000	5,081,033	1000	5,798,360	1000	5,271,115	1000	5,577,109	1000	5,463,860	1000	5,258,372	1000	6,027,266	1000	7,039,428	1000	7,339,015	1000	

注 1. ギリシャ政府観光局資料による。
2. クルーズは国籍別に分類されていない。

3) ギリシャを訪れる日本人旅行者数を入国ベースで見ると、1970年代においては着実に増加していた。特に1979年には、池田満寿夫のベストセラー小説「エーゲ海に捧ぐ」及び、同小説の映像化によるエーゲ海ブームにより、対前年比110%増という非常に高い伸びを示した。

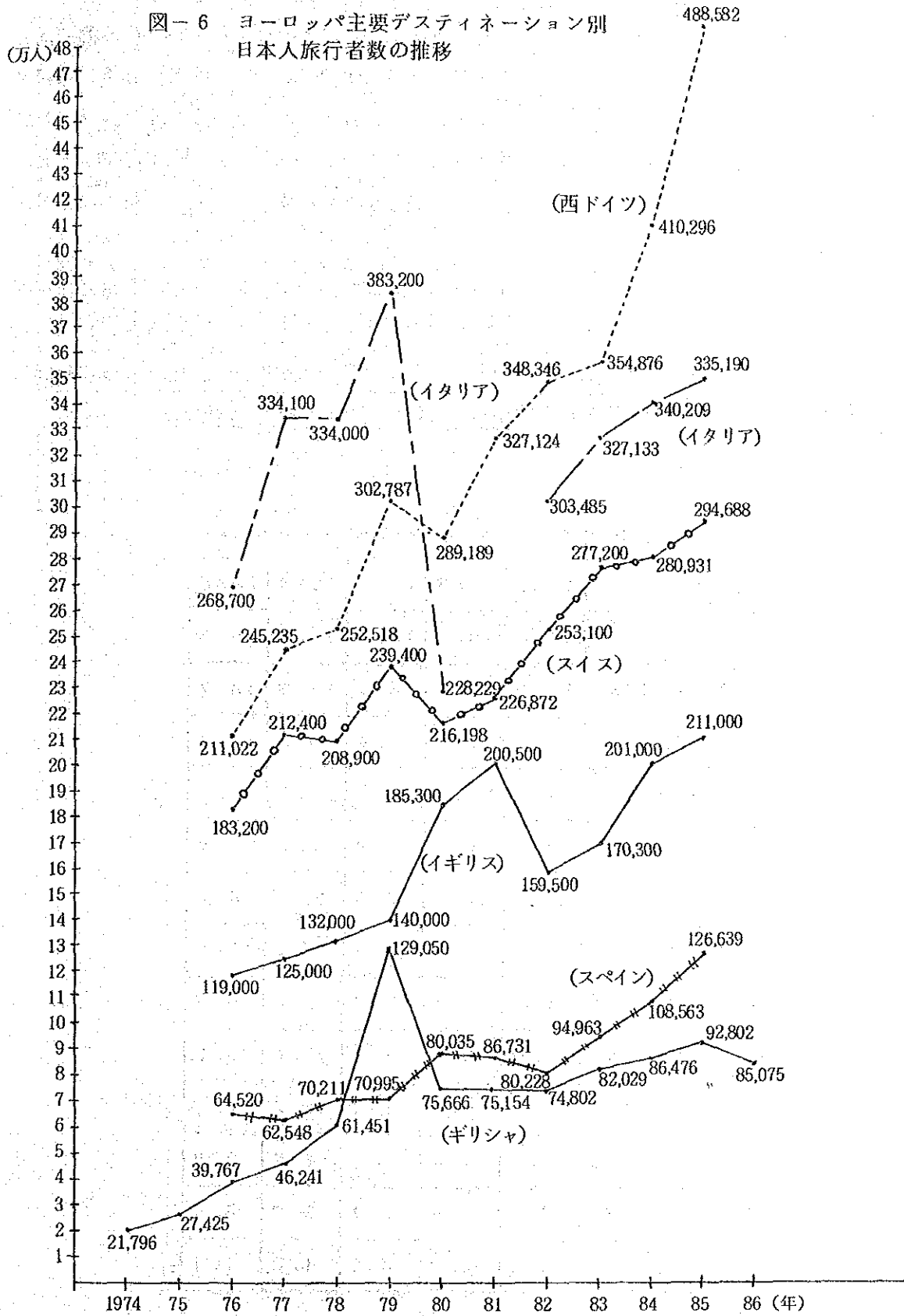
1980年代に入ると、オイルショック及び、それに伴う国際航空運賃の上昇等により、旅行者の

図-5 地域別ギリシャを訪問した旅行者数の推移



(注) ギリシャ政府観光局資料による。

図-6 ヨーロッパ主要 destinations 別
日本人旅行者数の推移



注 1. 各国政府観光局資料による。
2. イタリアの81年は不明。

伸びは停滞を続けたが、1983年ごろから再び増加している。しかし、1986年にはヨーロッパにおけるテロ行為の激化、チェルノブイリ原発事故等の影響等により落ち込んだ。

4) ギリシャは、日本人からみると、ヨーロッパ各国中、スイスに次いで第2位という高い潜在需要を有する国である。また、4月～9月に全旅行者の82%、中でも7月、8月に旅行者が集中する夏型デスティネーションであるのに対し、日本人海外旅行者は1月～3月及び10月～12月と4月～9月ほぼ半数ずつ旅行を行っており、ギリシャについてみても2月、3月がピークとなり、その他の月も7～9%と極端な変動をすることなく、年間ほぼ平均した傾向を示している。

また、夏場においてはエアラインの座席、宿泊施設がオーバーブッキングとなり、ギリシャへの旅行がしにくい現状を考えあわせると、シーズンオフである1月～3月、10月～12月の冬場に日本人旅行者数が増加することが、宿泊施設の効率的利用、ギリシャへの年間入込み旅行者数の平準化のうえからも望ましいといえよう。

表-17 Survey of Most Desired Travel Destination in Europe

Prl.	Country	1981	1982	1983	1984	1985
1	Switzerland	19.5	20.0	18.5	20.2	16.8
2	GREECE	12.2	13.8	13.1	11.6	12.7
3	FRANCE	10.5	11.7	10.4	9.3	11.8
4	SPAIN	11.1	11.9	9.4	10.5	9.8
5	WEST GERMANY	7.2	8.8	7.7	8.9	8.9
6	UNITED KINGDOM	6.3	7.3	7.6	8.3	8.8
7	ITALY	4.6	8.8	4.9	6.1	7.5
8	AUSTRIA	5.7	8.2	5.7	6.4	5.6
9	SWEDEN	6.8	6.8	6.1	6.4	5.2
10	Netherlands	6.4	6.2	4.5	5.2	4.1
11	FINLAND	2.8	5.4	3.1	4.2	3.9
12	DENMARK	3.2	4.4	3.4	3.5	3.0
13	BELGIUM	1.8	2.8	2.0	1.3	1.7

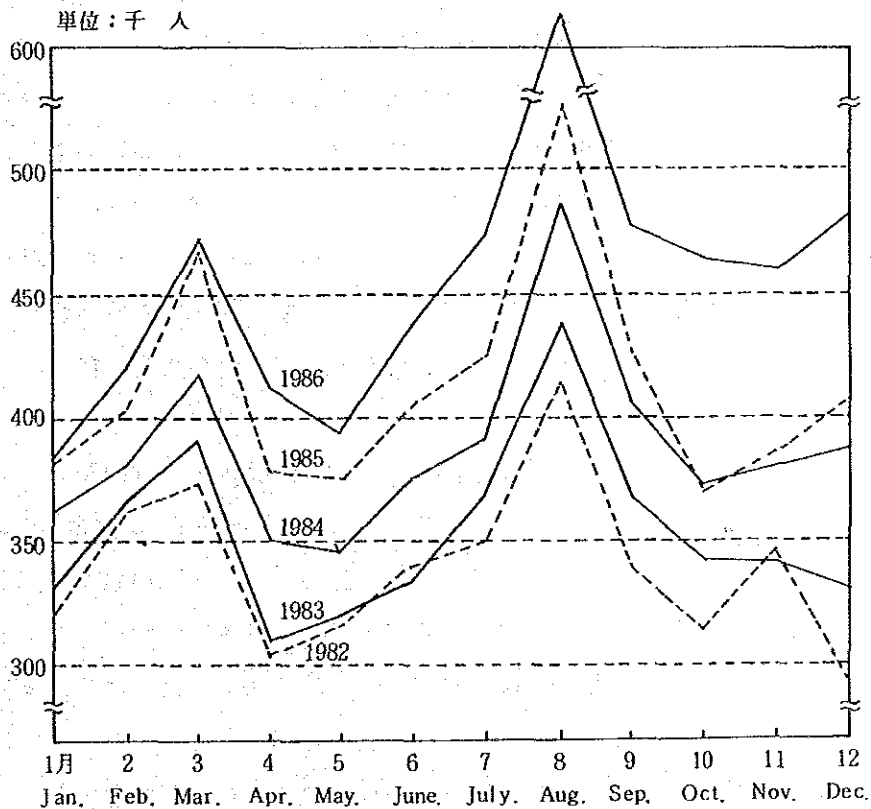
(注) 日本航空資料による。

表一18 月別日本人海外旅行者数(昭和57年~昭和61年)

月 Month	昭和57年		昭和58年		昭和59年		昭和60年		昭和61年	
	1982	%	1983	%	1984	%	1985	%	1986	%
1月Jan.	316,686	0.8	325,502	2.8	362,447	11.4	379,384	4.7	381,013	0.4
2月Feb.	360,949	5.5	363,838	0.8	381,036	4.7	402,300	5.6	423,058	5.2
3月Mar.	376,959	4.5	392,712	4.2	416,451	6.0	464,784	11.6	474,276	2.0
4月Apr.	305,592	8.4	308,911	1.1	349,923	13.3	377,027	7.8	413,510	9.7
5月May	316,066	-0.1	320,465	1.4	346,938	8.3	373,742	7.7	395,108	5.7
6月June	339,214	5.2	332,412	-2.0	376,395	13.2	403,007	7.1	438,718	8.9
7月July	351,771	2.4	369,560	5.1	391,069	5.8	427,590	9.3	482,029	12.7
8月Aug.	417,050	0.4	437,951	5.0	486,820	11.2	526,423	8.1	615,657	17.0
9月Sep.	332,676	-3.8	365,540	9.9	404,751	10.7	429,568	6.1	483,768	12.6
10月Oct.	328,122	1.9	345,848	5.4	374,447	8.3	370,719	-1.0	463,574	25.0
11月Nov.	337,753	-2.6	340,048	0.3	382,139	12.4	389,326	1.9	460,739	18.3
12月Dec.	303,300	2.9	329,459	8.6	386,417	17.3	404,496	4.7	484,743	19.8
計 Total	4,086,138	2.0	4,232,246	3.6	4,658,833	10.1	4,948,366	6.2	5,516,193	11.5
うち 1~3月 10~12月 の占める割合	49.5		49.6		49.4		48.7		48.7	

注) 国際観光振興会資料による。

図一7 日本人海外旅行者数の月別傾向



注) 国際観光振興会資料による。

表-19 月別ギリシャを訪問した旅行者数

月	全 体		日 本 人	
	旅行者数	構成比(%)	旅行者数	構成比(%)
1	97,218	1.4	6,200	7.0
2	97,034	1.4	9,000	10.2
3	247,405	3.5	11,000	12.4
4	497,791	7.0	6,500	7.4
5	811,194	11.5	6,500	7.4
6	944,819	13.4	5,500	6.2
7	1,259,448	17.8	6,500	7.4
8	1,265,318	17.9	8,000	9.1
9	965,120	13.6	6,500	7.4
10	529,414	7.5	6,500	7.4
11	169,945	2.4	7,500	8.5
12	185,720	2.6	8,500	9.6

- 注 1. ギリシャ政府観光局資料による。
 2. 全体は1985年，日本人は1986年の旅行者数である。

5) 日本人海外旅行者は，所得水準の向上，自由時間の拡大により，年々増加してきたが，この傾向は円高傾向と相俟って，今後とも続いていくものと思われる。

さらに今後渡航手続の簡略化，国際航空運賃の割引制度の充実，他の先進諸国と比べると少ない年間休日，また，休暇制度の違い（例えば，フランスにおけるように，法律により5週間中，少なくとも2週間は連続して取得しなければならないとされているケース，オーストラリアにおけるように，同一雇用主のもとで1年間勤務すると与えられる最低20日間の奨励金付年次有給休暇制度）から，他の先進諸国のように長期にわたる休暇を取得しにくい状況が解消されるならば，より手軽に海外旅行を楽しむことが可能となり，海外旅行者数はますます増加していくであろう。

このような中においてヨーロッパは，日本人にとって古代・中世の歴史・文化が混在する，きわめて魅力あるアスティネーションであり，過去の推移をみても，安定した旅行者数を確保している。しかし，ギリシャについてみると，遺跡とエーゲ海人気に支えられ，比較的安定して旅行者数を確保しているものの，西ドイツ，スペインにおけるような積極的プロモーションの欠加，アクセス面の整備の不良等から，ヨーロッパにおけるシェアを年々低下させてきているのが現状である。

ギリシャは，日本人にとって古代遺跡とエーゲ海のイメージが強烈であり，通常の場合

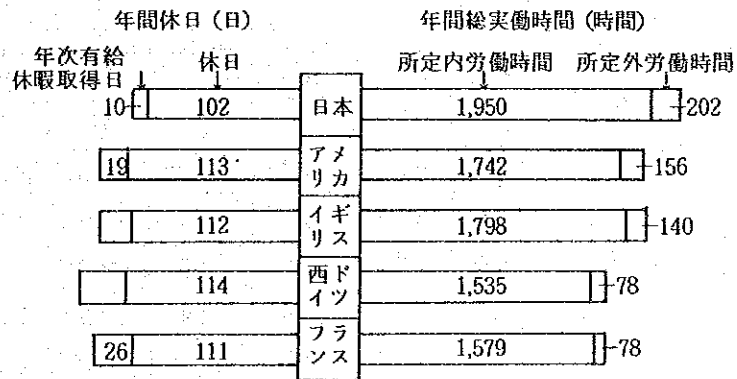
表-20 1人当り国民所得

(単位:ドル)

年	アメリカ	イギリス	フランス	西ドイツ	イタリア	日本
56 (1981)	11,431	7,941	9,395	9,736	5,581	7,758
57 (1982)	12,082	7,554	8,772	9,333	5,453	7,321
58 (1983)	12,895	7,198	—	9,331	5,546	7,929
59 (1984)	14,204	6,733	—	8,823	5,436	8,318
60 (1985)	14,836	—	—	8,949	—	8,836

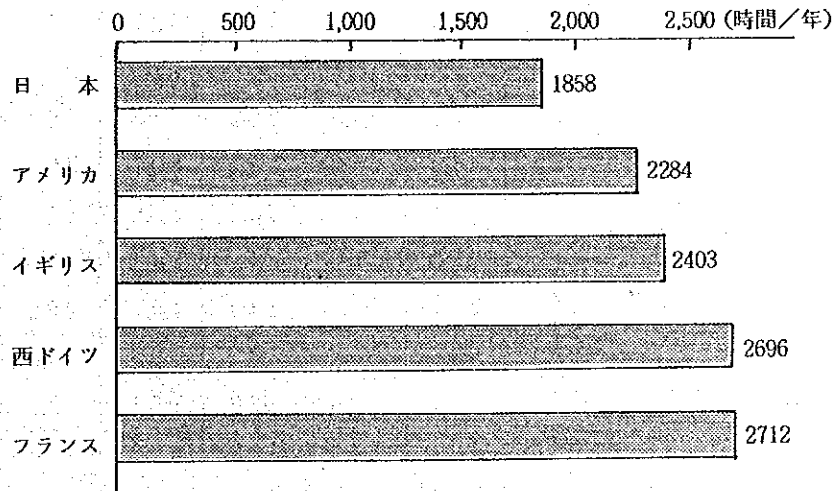
注: 60年の実質経済成長率は暫定数字
資料: 経済企画庁「経済要覧(62年版)」

図-8 休日と労働時間の国際比較



注: 1983年調査による
資料: 経済企画庁「国民生活白書」(61年)

図-9 自由時間の国際比較(1985年)



注 (1) 労働省資料, NHK「国民生活時間調査」(勤め人, 男性), OECD資料, フィンランド中央統計局「The Time Use Study Method」による。
(2) 自由時間=年間総時間(8760時間)-生活必需時間-年間総労働時間-通勤時間-家事時間の1/2により計算

比較的短い滞在期間でのアテネ周辺の遺跡観光とクルーズが中心となっている。

また、ショッピング（特にブランド品）、ナイトショー等の楽しみの要素が少なく、アクセス、言語、食事等、日本人にとって旅行にあたっての障害となる問題点が多岐にわたるため、これらの点の改善がなされない限り、大幅な日本人旅行者数の増加は見込めないと思われる。

(2) 性別

日本人海外旅行者数に占める女性の割合は年々高まっているが、中でもヨーロッパ州、北アメリカ州、オセアニア州が高い。

ヨーロッパ各国中においてはギリシャが一番高く50%を超えているが、西ドイツ、イタリア、スペインにおける女性の割合の伸びが大きい。

表-21 渡航先別出国日本人の男女比率

(単位：%)

地域	年 性別	昭和58年		昭和59年		昭和60年		昭和61年	
		男	女	男	女	男	女	男	女
1.ヨーロッパ		57.2	42.8	57.1	42.9	56.8	43.2	56.2	43.8
フランス		50.8	49.2	50.4	49.6	50.9	49.1	50.5	49.5
イギリス		58.5	41.5	58.5	41.5	57.3	42.7	57.2	42.8
西ドイツ		69.5	30.5	68.9	31.1	67.3	32.7	66.4	33.6
イタリア		55.7	44.3	52.9	47.1	53.0	47.0	52.1	47.9
スイス		54.3	45.7	55.0	45.0	55.2	44.8	56.1	43.9
スペイン		52.7	47.3	51.7	48.3	50.5	49.5	48.7	51.3
ソビエト		—	—	73.3	26.7	70.6	29.4	71.2	28.8
ギリシャ		46.5	53.5	45.8	54.2	45.8	54.2	46.4	53.6
オランダ		63.1	36.9	62.4	37.6	62.7	37.3	62.9	37.1
ベルギー		—	—	—	—	72.9	27.1	68.9	31.1
スウェーデン		70.7	29.3	71.8	28.2	71.3	28.7	71.1	28.9
デンマーク		58.6	41.4	61.9	38.1	60.7	39.3	63.9	36.1
その他		61.2	38.8	61.8	38.2	58.6	41.4	59.0	41.0
2.アジア		76.7	23.3	75.3	24.7	74.4	25.6	73.6	26.3
3.アフリカ		78.3	21.7	76.1	23.9	73.2	26.8	72.0	28.0
4.北アメリカ		56.4	43.6	56.8	43.2	56.9	43.1	56.3	43.7
5.南アメリカ		77.3	22.7	78.0	22.0	76.4	23.6	74.1	25.9
6.オセアニア		54.6	45.4	54.2	45.8	54.2	45.8	54.0	46.0
7.その他		46.4	53.6	29.6	70.4	97.1	2.9	82.4	17.6
総数		66.7	33.3	66.0	34.0	65.5	34.5	64.9	35.1

注：法務省「出入国管理統計年報」による。

(3) 年齢別

出国日本人の年齢・性別構成は表-22のとおりであり、20~29歳が最も多く27.3%を占めており、中でも経済的、時間的に余裕のある20歳代女性の割合が42.8%と、全女性中の過半数近くを占めている。

表-22 年齢別・性別 出国日本人

	性別	総数	9歳以下	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	不詳
昭和 57年	総数	100.0	1.5	3.2	26.8	24.8	19.9	14.2	9.4	0.2
	男	100.0	1.1	2.2	19.2	29.4	24.1	14.8	9.0	0.2
	女	100.0	2.3	5.3	42.9	15.2	10.9	13.1	10.2	0.1
昭和 58年	総数	100.0	1.5	3.3	27.1	24.0	19.6	14.5	9.8	0.2
	男	100.0	1.2	2.3	19.2	28.6	24.0	15.2	9.4	0.1
	女	100.0	2.2	5.4	43.0	14.7	10.8	13.1	10.5	0.3
昭和 59年	総数	100.0	1.5	3.5	27.0	23.3	19.6	14.7	10.3	0.1
	男	100.0	1.1	2.5	18.9	27.9	24.1	15.5	9.9	0.1
	女	100.0	2.1	5.5	42.5	14.5	10.8	13.3	11.0	0.3
昭和 60年	総数	100.0	1.5	3.7	27.4	23.2	19.1	14.7	10.4	0.0
	男	100.0	1.2	2.7	19.1	27.8	23.6	15.7	10.0	0.0
	女	100.0	2.1	5.8	43.3	14.4	10.4	12.9	11.0	0.0
昭和 61年	総数	100.0	1.6	4.2	27.3	22.9	18.8	14.8	10.5	0.0
	男	100.0	1.2	2.9	18.9	27.4	23.4	15.9	10.3	0.0
	女	100.0	2.2	6.6	42.8	14.6	10.3	12.7	10.8	0.0

注 法務省「出入国管理統計年報」による。

(4) 職業別

今後の調査による。

(5) 目的別

出国日本人の渡航目的は表-23のとおり81.7%が観光である。これをギリシャへの入国日本人と比較すると、観光が62%と低下し、商用が25%とかなり多くなっている。

(6) 平均滞在日数の推移

今後の調査による。

(7) 消費額の推移

今後の調査による。

表-23 出国日本人の渡航目的

渡航目的	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年
外 交	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
公 用	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
業 務	12.6	12.9	13.5	14.1	13.7
海外支店勤務	1.0	1.0	1.1	1.2	1.1
学術研究調査	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4
留学・技術修得	0.4	0.4	0.5	0.5	0.7
役 務 提 供	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
永 住	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
家 族 と 同 居	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1
観 光	83.0	82.6	81.9	81.3	81.7
不 詳	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注 法務省「出入国管理統計年報」による。

表-24 ギリシャを訪問した日本人の目的

Distribution by purpose of visit	
Transit	4%
Holidays	62%
Business Journeys	25%
Visits to friends and relatives	—
Others	8%
Combination 1×2	1%
Combination 1×3	—
Combination 1×4	—

2. エアラインの現状と見通し

現在の東京—アテネ間におけるエアラインの就航状況は表-25のとおりである。

このように南回り直行便が極端に少なく、現在日本航空の週3便（年間収容能力8万席）となっているが、これはルフトハンザ航空（83年4月）、スイス航空（86年3月）、オランダ航空（86年5月）等が相次いで運航を中止したためであり、このため乗り継ぎによるよりも直行便を希望する日本人旅行者にとっては、極めて不便な状況が生じている。さらに日本航空は、現在、週3便の南回り直行便を、昭和63年度ダイヤから週2便に減便を予定しており、ギリシャを訪

表-25 エアラインの就航状況(東京-アテネ)

	東京 - アテネ			アテネ - 東京		
	乗り継ぎ地	便/週	乗り継ぎに要する時間(平均)	乗り継ぎ地	便/週	乗り継ぎに要する時間(平均)
北回り便(ヨーロッパ経由)	ヘルシンキ	1	0:55	ヘルシンキ	1	6:00
	ロンドン	7	5:39	ロンドン	14	2:34
	アムステルダム	3	5:18	アムステルダム	4	2:23
	ブラッセル	3	5:43	ブラッセル	4	1:50
	フランクフルト	8	1:44	フランクフルト	7	1:39
	パリ	3	5:17	パリ	3	3:45
	コペンハーゲン	4	4:54	コペンハーゲン	3	3:10
	マドリッド	2	4:10	マドリッド	1	2:15
	計	31		計	37	
南回り便(東南アジア等経由)	シンガポール	4	3:36	シンガポール	3	3:12
	バンコック	3	5:20	バンコック	1	1:05
	カラチ	2	3:55	カラチ	1	2:50
	シンガポール・イスタンブール	2	5:30	アンマン・シンガポール	1	11:40
	ソウル・チューリヒ	2	4:35	ローマ・バンコック	4	3:50
	シンガポール・アンマン	1	8:00	フランクフルト・ホンコン	3	3:52
	バンコック・ローマ	1	7:20			
	ホンコン・フランクフルト	3	4:30			
	計	18		計	13	
〃(直行便)		2			2	
合計		51			52	

注 1. 昭和63年4月8日現在。
2. 時刻表「ABC」より。

れる日本人旅行者にとっては、ますます不便な状況になろうとしている。

また、北回り乗り継ぎ便をみても、便数は南回りと比べかなり多くなっている(年間収容能力100万席)ものの、乗り継ぎに要する時間が東京-アテネ間平均4時間27分、アテネ-東京間平均2時間55分と長く、ひどい場合には12時間を要するケースも見受けられる。また、オリンピック航空の運航状況をみても、朝アテネを出発し、昼ごろヨーロッパのデスティネーションに到着、夕方アテネに戻るといったパターンであり、昼すぎにヨーロッパのデスティネーションに到着する日本からの便に、その日のうちに連絡することは不可能となり、ギリシャへの日本人旅行者

表-26

OLYMPIC AIRWAYS
INTERNATIONAL SCHEDULES
1987 SUMMER
From ATHENS

EUROPE
MIDDLE EAST
ASIA
USA/CANADA
S. AFRICA

	FRQCY	FLT	FRM ATH	FLT	TO ATH
AMMAN	2	OA313	1235/1635	OA314	1130/1410
ABU DHABI	2	OA345	1140/0415	OA345	2015/0545
ALEXANDRIA	3	OA327	0625/0805	OA328	0850/1140
AMSTERDAM	Daily	OA153	0820/1040	OA152	1140/1545
BRUSSELS	Daily	OA145	0840/1150	OA146	1250/1640
CAIRO	Daily	OA325	1915/2010	OA326	0820/1115
COPENHAGEN	4	OA185	1010/1230	OA186	1320/1720
DAMASCUS	2	OA313	1235/1600	OA314	1955/2235
DUSSELDORF	Daily	OA181	1700/2010	OA182	0830/1530
DUBAI	2	OA345	0735/2015	OA346	0510/1200
FRANKFURT	Daily	OA171	0735/1035	OA172	0955/1440
GENEVA	Daily	OA135	1155/1345	OA136	1430/1810
ISTANBUL	Daily	OA321	0830/0940	OA322	1025/1135
JEDDAH	2	OA341	2115/0030	OA342	0150/0410
JOHANNESBURG	2	OA105	0635/1650	OA104	1930/0535
KUWAIT	2	OA345	2015/0045	OA346	0815/1200
LONDON	2 Daily	OA259	0825/1105	OA260	1230/1755
LYON	2	OA213	0850/1050	OA214	1135/1520
MARSEILLES	4	OA215	0915/1100	OA216	1145/1520
MADRID	Daily	OA247	0920/1200	OA248	1250/1715
MELBOURNE	2	OA471	0240/0610	OA472	1805/0545
MILAN	Daily	OA241	1200/1315	OA242	1405/1715
MONTREAL	2	OA421	0825/1210	OA422	1840/1015
NAIROBI	2	OA105	0635/1650	OA106	0105/0535
NEW YORK	Daily	OA411	1155/1115	OA412	1845/1050
NICOSIA	Daily	OA333	1150/1320	OA332	1000/1135
PARIS	Daily	OA201	0900/1115	OA202	1225/1625
ROME	2 Daily	OA233	0800/0855	OA234	1010/1300
RIYADH	2	OA343	2035/0105	OA344	0205/0555
SINGAPORE	2	OA471	0240/0610	OA472	0050/0645
STUTTGART	Daily	OA191	0805/1100	OA192	1145/1625
SYDNEY	2	OA471	0240/0840	OA472	1530/1140
TEL AVIV	Daily	OA301	1820/2010	OA302	0850/1145
TIRANA	1	OA115	0905/1050	OA116	1150/1520
TORONTO	2	OA421	0825/1415	OA422	1615/1015
TRIPOLI	3	OA317	1130/1330	OA318	1345/1645
VIENNA	Daily	OA159	1205/1325	OA160	1410/1720
ZURICH	Daily	OA131	1000/1140	OA132	1235/1605

は、ヨーロッパのデスティネーションで旅行期間を1泊分とられることとなる。これは、限られた比較的短い期間で海外旅行を行う日本人にとっては大きな障害であり、早急に改善を要する問題である。また、従来、北回り便を利用するにあたって旅行者に割高感を与えていたコモンフェアの未適用の問題も87年10月以降解消されたが、即旅行者増につながる要因とは必ずしもなりえないと思われる。

ギリシャのようなロングデスティネーションにあつては、何よりアクセスの改善が必要である。北回りは増便傾向にあるものの、前述のとおり乗り継ぎにおいて問題があり、南回りは、かえって減便が予定されている状況である。また、北回り便の乗り継ぎの改善はオリンピック航空が現在、機材不足の状況であり、乗り継ぎ改善が早急になされることは望めない。さらにオリンピック航空の日本乗り入れについては、航空協定上問題はないものの、政策上、ギリシャ移民の多いシンガポ、カナダを優先せざるをえず、今後5年間乗り入れを予定していない。しかし、オリンピック航空は日本を冬型マーケットということで高く評価しており、現在、好調のオーストラリア路線の増便要求が、政府との交渉の結果、実現しなかった場合には、それを日本に振り替えることを検討しているので、日本への乗り入れ時期が早まることも考えられる。

しかし、従来、大きな問題となっていた従業員のストライキについては、近年は頻度も少なく他社並もしくはそれ以上に改善されており、全たく問題はなくなっている。

オリンピック航空の主要都市・デスティネーションとの就航状況は表-26のとおりである。

旅行、特に海外旅行の場合、足の確保が第一であり、これの改善がなされない限り旅行者数の増加は望めないが、ギリシャの場合、現在のところ早急な改善は見込めないが、少なくとも北回りとの連絡については、今後なるべく早い時期の改善が望まれる。

このように、やはりヨーロッパを重視した就航状況であるが、東京-アテネ間のアクセス改善を考えるならば、東南アジア特にシンガポール、バンコックとの連絡についても検討していく必要がある。

表-27 日本人の北回り・南回り航空便利用状況
(単位:千人)

方 面	年 度	旅 客 数
北 回 り 欧 州	59	859
	60	906
南回り欧州・アジア	59	6,121
	60	6,474
計	59	6,980
	60	7,380

注：運輸省航空局資料による。

3. 旅行業界の現状

日本の主要旅行業者13社から得たギリシャ観光に係る現状と問題点は表-28のとおりである。

まず、日本人はギリシャに対しエーゲ海と古代遺跡、特にエーゲ海に強烈なイメージを持っている。このため20歳代の若い女性及びハネムーンに絶大な人気がある。しかし、現実のギリシャ観光をみると、特に演出の施されていない古代遺跡と単調なエーゲ海クルーズのみであり、他に付加価値となるようなブランド品のショッピング、ナイトショー等の楽しみがないため、モノデスティネーションの対象とはなり難く、現段階ではヨーロッパの人気デスティネーションであるロンドン、パリ、ローマ等と組み合わせたマルチデスティネーションパックの中の1カ国という地位にとどまっている。

また、ロングデスティネーションに不可欠の要件であるアクセスが改善されない。食事は一般的にオリーブ油の味付けが強く、塩分が多いため、日本人の嗜好に合わない。観光地における案内板、パンフレット等の表示が日本人に全くなじみのないギリシャ語のみの場合が多く、英文表示もあまり普及していない。日本語ガイドの数が少なく、かつ質もあまり良くない。商店の営業時間が短く、購買欲をそそるような土産品がない。日本人は支出に見合ったサービスを要求するが、それが必ずしも満足されない等、日本人が旅行をするにあたって障害となる点がかなり多いのが現状であり、旅行者数を増加させるためには、これらの改善が必要となるが、ギリシャを訪れる日本人旅行者数はギリシャへの全旅行者中1%にすぎないので、日本人向けの大幅な改善は見込めないと思われる。

しかし、今後日本における積極的宣伝活動（宣伝活動が不足しているためテサロニキなどが日本人にあまり知られておらず、テサロニキを回るツアーを試みたが、結果は芳しいものではなかった）、アクセスの改善、土産品の開発・改良などがなされない限り、日本人旅行者は伸び悩みを続けると思われる。

なお、ギリシャ側が強く要望している滞在日数の延長については、日本人旅行者はクルーズ、遺跡めぐり、ショッピング等、合わせて2泊3日もあればギリシャ観光に満足してしまうので、現状のままでは延長は困難である。

ギリシャのホテルの料金の現状は表-29のとおりである。

表-28(1)

	A 社	B 社	C 社	D 社
1. ツアーの①本数、 ②平均的価格、 ③取扱実績	①35本 ②夏50万 冬30万(10~12日コース) ③2840人(62年1~8月 昨年同期1,980人、43%up) (リピーターが多い)	①30本 ②50万(8~10日間) ③4,160人(4~9月 昨年同期比125.8%)	①60本(62年下期) ②20万 ③2,000人弱	①30本 ②33万~44万 ③7,000~8,000人
2. ギリシャにおける滞在日数	2泊3日が大部分	2泊3日が大部分	2日が限度	2~3泊ぐらい
3. ギリシャへの出店状況	なし	なし	なし	なし
4. 現地でのランド・オペレーター (内は日本人スタッフ数)	(代理店)日本ヘレニック(1)	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Hellenic Tourist(2) ◦ Varvias Tourist Enterprise(1) ◦ Wagon-List 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ミキツーリスト ◦ ナフスインターナショナル 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ミキツーリスト ◦ 欧州エクスプレス(1) ◦ クオン
5. 使用航空会社	JAL, 英国航空, サベナベルギー航空, ルフトハンザ航空, スイス航空, スカンジナビア航空, KLMオランダ航空, フィンランド航空, アリタリア航空, イベリア航空	JAL, KLM, BA, SAS, フィンランド, エアフラ, ルフト etc	JAL, エアフラ etc	JAL, BA, エアフラ, LH, KLM, アリタリア
6. 他のディスティネーションとの組合せ	ローマ, ロンドン, パリ, スイス, ドイツ(北欧はチェルノブイリの関係で不入致)	ローマ, パリ (ドイツ, イギリス少ない)	ローマ, マドリッド, パリ	パリ
7. ギリシャ観光の現状及び問題	<ul style="list-style-type: none"> ◦ アクセス不便(特に夏場) ◦ ギリシャ政府のアピール不足により旅行者に印象悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ハネムーンナーが約80%占める ◦ 買物ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 取扱実績は夏, 冬半々 ◦ 7:3で女性, 特に若年女性が多い。また50代女性もかなりいる 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 北回り中心 ◦ 冬場が多い, 女性70% ◦ 均一料金メリット

表一 28 (2)

	A 社	B 社	C 社	D 社
<p>8. 今後の見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 。食事が日本人の嗜好に合わない 。米国人旅行者の落ち込みが激しい (30%程回復) 。日本人ガイドが不足している 。行政行間でガイドの保護育成、研修できないか 。日本人観光客は若年女性、ハネムーンが多い 。バス、鉄道、道路ともよくない 。エジプトとの組合せがよく売れている 。日・ギリシャ間で姉妹都市あり (与論・ミコノス etc.) 。ホテル、医療設備とも特に問題は無い 	<ul style="list-style-type: none"> 。食事はシーフード以外日本人の嗜好に合わない 。盗難等は余りない 。ガイドの数が少なく、悪質なガイドもいる 。ホテルの設備がよくない 。若年女性にエーゲ海クルーズがうけている 	<ul style="list-style-type: none"> 。リゾートターが行かない 。食事、ガイドに問題あり 。北回り中心 。土産品がない 。ショッピング案内を作ってほしい 。風呂がない (シャワーのみ) 。博物館の閉館時間が早い 。TAXI (相乗り) よくない 。国内航空の乗りつきが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> 。ハネムーン、学生多い 。ガイド不足 。食事はシーフード以外日本人の嗜好に合わない 。土産品がない 。空港施設が悪い 。夜余り出歩けない 。トルコ、エジプトと組合せたりビーターあり 。グレードの高いホテルが揃えている 。ピレウス・ミコノスにホテルがない 。博物館にはほとんど入らない
<p>9. J A I 南回り減便に対する考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> 。89年はフランス革命200年祭があり、欧州全体入込客数激増するものと思われる 	<ul style="list-style-type: none"> 。熟年向けの対策を考えなければならぬ 。さほど大きな影響でない 。ヨーロッパ回りにかえる 	<ul style="list-style-type: none"> 。特に意識していない 	<ul style="list-style-type: none"> 。ピレウスが売れるのではないか 。特に影響受けない

表一28(3)

	E 社	F 社	G 社	H 社	I 社
1. ツア一の①本数、 ②価格、③取扱 実績	①月平均20本 ②35万 ③年間8,000～10,000人	①下期2本 ②35～40万 ③年間50～100名	①14本 ②50万 ③1,000人ぐらい	①10本 ②40万 ③90名 (欧州3,000人中)	①月平均4～5本 ②下期35万前後 ③6,500名(昨年、一昨年比 90%)、今年は伸びている
2. ギリシャにおける 滞在日数	2泊3日	2泊3日	3泊4日	2泊3日	3～4泊
3. ギリシャへの出 店状況	なし	なし	なし	なし	なし
4. 現地でのランド ・オペレーター ()内は日本人ス タッフ数	—	・メキシコツアー ・日本ヘレニニック(1)	・ミキトラベル ・欧州エクスプレス(1) ・クオオニトラベル	・アンフイトリオン(1) ・マノス	・アルパニティストラベル(1) ・アンフイトリオン(1)
5. 使用航空会社	JAL, ルフト, エアフラ, エジプト etc	フィンエア, ルフト, JAL	—	主にJAL(南北とも)	JAL, スイスエア, BA, ルフト
6. 他のディスティ ネーションとの 組合せ	カイロ, ローマ, パリなど	ローマ, パリ	—	パリ, ジェネーブ, ロンドン, ローマ	パリ, ウィーン, ローマ, ト
7. ギリシャ観光の 現状及び問題点	・ハネムナー及びリビエ ターが多い ・冬場が多い(学生) ・夏は教師、医師多い ・空港設備あまりよくない ・ホテル設備 " " ・食事が日本人の嗜好にあ わなない ・ガイドがよくない	・アクセス不便 ・北回り中心 ・4,5,6月及び夏場が多い ・OAのサービスク時不足 ・ガイドピーク時不足 ・土産品たいしたものがない ・ゲートウェイ的なものに りうるか ・エーゲ海に人気	・ハネムナーが多い ・アテネのみでは売れない ・ガイドが25～6人でピーク 時不足 ・均一料金メリット ・土産品がよくない ・ホテル, クルーズ船ま ず ・食事が合わない	・冬場が多い ・ホテル間格差大きい ・ロードス島最近人気 ・エーゲ海クルーズ人気 ・土産品がない ・入国時の所持金申告をやめて ほしい ・全体的に旅行者は増えている が、欧州より台湾, ソウルな	・北回り中心 ・ギリシャものパッケージツアー 一中4割がギリシャ単独 ・冬場が多い ・東欧増えている ・ハネムナーにエーゲ海クル ーズ根強い人気 ・日本人ガイド12名,ギリシャ人 ガイド12名がいるがあまりよ

表-28(4)

	E 社	F 社	G 社	H 社	I 社
8. JAL南回り便に対する考え	<ul style="list-style-type: none"> 土産品買わない 博物館魅力がない 政府観光局があまり積極的でない 管制官のストライキにより影響受けた 仕方ない 	<ul style="list-style-type: none"> ギリシヤがますます遠のいていく 	<ul style="list-style-type: none"> OAのサービスがますます 特に問題ない 	<ul style="list-style-type: none"> どの増加著しい アチネからの帰路のアジア便が減るのは困る 	<ul style="list-style-type: none"> よくない バス、冷房なし ホテルがまずまず オリンピア、スバルタキアを回るコースがない PR不足 北回り便のつながりが悪いため直行便が減るのは困る

表一 28 (5)

	J 社	K 社	L 社	M 社
1. ツアーの①本数、 ②価格、③取扱 実績	① 25(62)本 ② 278千円~498千円(35万) ③ 1,220	① 26本 ② 45万	① 185本 ② 夏43万円, 冬30万円 ③ 6,000人	① 約40本 ② 冬20万 ③ 年100~200
2. ギリシャにおけ る滞在日数	2泊	2.5日	2泊3日	2泊3日
3. ギリシャへの出 店状況	なし	なし	なし	なし
4. 現地でのランドター ・オペレーター ()内は日本人ス タッフ数	ミキツーツーリスト	ミキトラベル	ミキトラベル TOI	欧州エクスプレス(I)
5. 使用航空会社	スイス エールフランス	BA(90%)	JAL, エールフランス, KLM, 英国航空, ルフトハンザ	アリタリア
6. 他のディスティ ネーションとの 組合せ	スイス, パリ	パリ, スイス, ロンドン	ロンドン, パリ, ローマ, マドリード, スイス	ローマ, パリ
7. ギリシャ観光の 現状及び問題	<ul style="list-style-type: none"> ハネムーンナーが大部分 冬場(特に10, 11月)多い 食事, ガイドとも特に問題なく旅行者にも満足してもらっている 	<ul style="list-style-type: none"> 買う, 食べるが弱い セールスポイントがエーゲ海のみでワンパターンになっている 本来ならば一週間クルーズを行えばギリシャ観光を満喫できるのだから が, 長すぎて今の客には尚早の感がある。 ショッピング, 市内観光, 斬新さに欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> OAの機材不足によりアテネ~ローマ間とりづらい ホテルの施設があまり良くない 観光ポイントの発掘が必要である タクシー等の交通機関が不便 	<ul style="list-style-type: none"> 東京(香港>上海)ローマ~アテネ(20日) 滞在費が安い 低額商品として販売しているので, 食料についても問題は出ていない ガイド問題はない 今後はトルコ, モロッコが競合してくるだろう

表一 29 (1)

二級書き季節料金
 1 US\$=130円 } 換算
 1 Dr. = 1.2円 (単位:円)

		通 常 料 金		団 体 割 引 料 金		
I. ATHENS 帯内						
1. Deluxe class						
A) ATHENS HILTON (480室)	SWB 11,310~18,070	D/TWB 13,910~20,670	SG 5,500~6,000	TW 7,000~7,500	税 13.85%	
E) HOTEL GRAND BRETAGNE (394室)	SWB 9,750~18,200	D/TWB 12,350~22,750	"	"	税, サービス込	
C) MARRIOTT HOTEL ATHENS (258室)	SWB 17,520~22,320	TWB 19,152~24,912	STE 14,784~19,440	"	税別, サービス別 15%	
D) ATHENAEUM INTER-CONTINENTAL (605室)	SWB 13,596	DWB 16,231~22,680	STE 48,000~72,000	上記料金よりやや高目 日本人団体ほとんどなし	税 13.85%, サービス込	
E) ASTIR PALACE-ATHENS CENTRE (79室)	SWB 14,880	DWB 16,440~19,200	STE 23,880~99,000	"	税別, サービス込	
2. S. First class						
A) ROYAL OLYMPIC HOTEL (310室)	SWB 10,800~	D/TWB 13,200	STE 14,400~21,600	TW 6,000~7,000	税, サービス込	
B) HOTEL NJV MERIDIEN ATHENS (183室)	SWB 15,258	D/TWB 18,360~29,564	STE 40,500~148,560	"	税別, サービス込	
3. First class						
A) HOLIDAY INN OF ATHENS (190室)	SWB 9,120~16,848	D/TWB 12,096~16,848	SG 4,000~5,000	TW 5,500~6,000	税, サービス込	
B) CARAVEL HOTEL (470室)	SWB 7,680~9,840 9,120~11,640	TWB 10,080~12,840 11,880~14,760	STE 20,400~86,400	"	税 12.5%, サービス込	
C) SAINT GEORGE LYCABETTUS HOTEL (149室)	SWB 4,932~6,192 6,138~7,620	D/TWB 6,996~8,226 8,844~10,398	STE 11,976~19,056 65,072~24,936	"	税, サービス込	
D) DIVANI ZAFOLIA PALACE HOTEL (193室)	SWB 6,720	DWB 7,200	STE 10,680	"	"	

表-29(2)

		通 常 料 金		団 体 割 引 料 金		
E) PARK HOTEL (147室)		SWB 4,906~ 7,147~	D/TWB 6,400 9,067	STE 8,533~14,741 13,333~17,263	SG 3,000~4,000 TW 4,500~5,000	税, サービス込
F) HOTEL PRESIDENT					上記5ホテルよりかなり安め	"
4. Economy class						
A) KING MINOS HOTEL (168室)		SWB 3,586 4,481	D/TWB 4,986 6,232	STE 7,171 8,962	SG 2,000~2,500 TW 3,000~3,500	税別, サービス込
B) TITINIA HOTEL (398室)		SWB 3,552~ 5,440	D/TWB 4,555~ 6,848	STE 9,109~ 19,136	"	"
C) HOTEL ILISSOS RIVER						
D) STANLEY HOTEL (395室)		SWB 2,160 4,440	D/TWB 2,808 5,760		SG 2,000~2,500 TW 3,000~3,500	税125%, サービス込
E) DORIAN INN HOTEL (146室)		SWB 4,150 5,227	DWB 5,548 6,934	STE 9,168 11,620	"	税, サービス込
F) ACROPOLE PALACE HOTEL (107)		SWB 2,352~ 3,420~ 2,880 3,967	DWB 3,420~ 4,716~ 4,224 5,887	STE 5,832~ 7,776~ 7,284 9,720	"	税別, サービス込
II. RHODES ISLAND						
Deluxe class						
A) GRAND HOTEL ASTIR PALACE (378室)		SWB 4,440 6,540~ 8,340	D/TWB 6,240~ 9,660~ 7,440 13,104	STE 11,520~ 17,160~ 22,800 36,480		-
B) RODOS PALACE HOTEL APARTMENT & BUNGALOWS (610室)		SWB 3,355~ 3,883~ 5,066 6,070	D/TWB 4,128~ 5,104~ 7,093 8,501	STE 5,104~ 12,064~ 8,501 20,795		-
C) HOTEL OLYMPIC PALACE				パンガロー 8,315~ 20,298~ 12,779 32,576		

表一 29 (3)

	通 常 料 金		団 体 割 引 料 金		
<p>Ⅱ. HERAKLION (クレタ島)</p> <p>First class</p> <p>A) GALAXY HOTEL (140室)</p> <p>B) ASTORIA HOTEL (141室)</p>	<p>SWB 3,000</p> <p>4,320</p> <p>3,360</p>	<p>D/TWB 3,240</p> <p>5,040</p> <p>3,840</p>	<p>STE 6,240</p> <p>9,360</p> <p>7,200</p>		<p>税別, サービス込</p> <p>税別, サービス 15%</p>
<p>Ⅳ. NYKONOS ISLAND</p> <p>First class</p> <p>A) HOTEL TAGOO</p> <p>B) HOTEL ANO MERS</p> <p>C) HOTEL ILIO MARIS</p> <p>Economy class</p> <p>A) HOTEL LETO</p>	<p>SWB 2,666</p> <p>3,626</p>	<p>DWB 3,680~4,054</p> <p>5,173~9,280</p>	<p>STE 6,613</p> <p>9,280</p>		
<p>Ⅴ. NAFFLION</p> <p>Deluxe class</p> <p>A) HOTEL XENIA PALACE</p> <p>First class</p> <p>A) HOTEL AMALA</p> <p>B) HOTEL AMFITRYON</p>					
<p>Ⅶ. OLYMPIA</p> <p>First class</p> <p>A) AMALIA HOTEL OLYMPIA (147室)</p> <p>B) SPAP HOTEL (51室)</p>	<p>SWB 4,908</p> <p>3,520</p>	<p>TWB 6,402</p> <p>DWB 4,800</p>			<p>税, サービス込</p> <p>税別, サービス込</p>

表一 29 (4)

No. DELPHI First class	通 常 料 金		団 体 割 引 料 金	
	SWB	TWB D/TWB		
A) AMALIA HOTEL (158室)	4,908	6,402		税, サービス込
B) VOUZAS HOTEL (58室)	4,213	5,653	STE 11,306	税別, サービス込

4. ギリシャから見た日本の旅行市場

- (1) 日本人海外旅行者数は、所得水準の向上、60年9月末ごろから急激に進行した円高の影響等により著しく増加し、昭和62年には683万人と、前年に比べ131万人(23.8%)増加し、史上最高を記録した。

このように増加している日本人海外旅行者の渡航目的地を見ると、相変わらずアジアが半数近くを占めており、また、オセアニアが大きな伸びをみせている。

一方、ヨーロッパへの日本人海外旅行者数は、昭和62年には70万7千人と前年に比べ12万7千人(21.9%)増加しているものの、全体に占めるシェアは10.4%と前年より低下している。また、昭和62年にギリシャを主要渡航先とした日本人海外旅行者数は、1万7千人と前年と比べ、ほとんど増えておらず、ヨーロッパにおけるシェアも前年の2.8%から2.3%に低下している。

- (2) ギリシャは西洋文明発祥の地であり、今なお豊かな文化遺跡を有し、エーゲ海の島々との出会いのできる国として、日本人特に若い女性及びハネムーンに高い人気を得ているが、実際にギリシャを訪れた日本人旅行者数をみると、昭和54年のエーゲ海ブーム時の13万人をピークに、以後8万人前後で推移している。これは①日本に対する積極的プロモーションが欠如している、②アクセスの改善がなされていない、③日本人の旅行目的中に大きなウェイトを占めるショッピング面の改善がなされていないこと、等によるものと考えられる。

これをアクセスについてみると、日本ーギリシャ間の直行便は日本航空の南回り週2便のみであり、便数が少なく時間がかかりすぎる。また、北回り便は南回りに比べ便数は多いものの、やはり乗り継ぎに時間がかかるため、比較的短期間で海外旅行をする日本人には旅行しにくい状況になっている。これの改善策としては、北回り便の乗り継ぎ改善が考えられるが、現在のオリンピック航空の機材の状況では、ヨーロッパ及びギリシャ移民の多いところを優先せざるをえず、日本人旅行者向けの改善は困難である。

また、ショッピング(特にブランド品)は日本人にとって最も大きな旅行目的の一つであり、イギリス、イタリア等ブランド品のショッピングのしやすい国における日本人旅行者数の伸びが大きいことを考えると、今後とも検討を要する。

さらに、近年のスペインにみられるような日本における積極的プロモーションは、ギリシャのように日本人に美しいイメージでとらえられている国にとって、日本人旅行者数の増加のため有効な手段となるであろう。

その他にも、日本語ガイドの質の改善、人数の確保、ナイトショーの充実、遺跡の演出等、日本人旅行者のために改善すべき点が多々見受けられる。

- (3) 以上の点の改善がなされ、ギリシャ人が日本人にとって魅力あるものとならない限り、ギリシャは日本人及び日本の旅行業者からモノデスティネーションの対象ととらえられず、他

の、より魅力的なヨーロッパのデスティネーションと組み合わせたマルチパックの中の1カ国という地位を脱しえないであろう。しかし、日本人旅行者数は、ギリシャを訪れる旅行者中1%程度にすぎないため、日本人向けの大幅な改善が早急になされることは現状では困難である。